

成人

第六六号

*PDFの公開は、優秀卒業論文の紹介を中心にした誌面の抜粋に限定しました。

目次に掲載された全文をご覧になりたい方は、宗教学科研究室にお問い合わせください。

目次

研究室より

贈る言葉

島田 勝巳

・
・
・
一頁

もがき続けること、考え続けること

渡辺 優

・
・
・
二頁

【平成三〇年度 卒業論文 優秀作】

サブカルチャーと宗教ーなぜ聖地巡礼なのかー

松村 理久

・
・
・
三頁

地域の拠点としての天理教会の新たな取り組みー子ども食堂を通してー

桑原 葵

・
・
・
三九頁

成人会より

今年度の活動をふり返って

六六代委員長 宇野 昂平

・
・
・
六七頁

平成三〇年度 成人会役員名簿

・
・
・
六八頁

平成三〇年度 成人会活動報告

・
・
・
六九頁

会員の声

・
・
・
七〇頁

【研究室より】

贈る言葉

宗教学科主任 島田 勝巳

教校本科に進んだある宗教学科の卒業生から聞いた話：
ある日、芹澤茂先生の「おふでさき」の演習で、おそらく寝ている学生がいたのでしよう。学生に対してほとんど怒ったことのない芹澤先生が、こう言われたそうです。

「あなたたちは、今、ここに、教祖がおられるのが分からないのですか？」

私はこの話を聞いて愕然としました。芹澤先生は、本当にその場に存命の教祖がおられることを信じていた。それに対して、こうした言葉が自分の口から発せられることを想像すらできない自分自身の姿に、愕然としたのです。

しかし考えてみると、ここに「信仰」について考えるヒントがあるようにも思えます。私は芹澤先生を通して、教祖存命という教えを見つめ直すことができました。芹澤先生が存在が、改めてこの教えに光を当ててくれたのです。

「信仰」というと、私たちはつい、神様と私個人との関係として考えがちです。しかし信仰は、人(他者)と私との関係性という要素をその一部―しかも重要な要素―として含んでいるようにも思えます。

『稿本天理教祖伝逸話篇』に「人がめどか」というお話があります。入信後間もない梅谷四郎兵衛は、お屋敷のひのきしんをしているとき、自分に対する陰口を聞いて憤り、深夜、密かに大阪に戻ろうとしました。ところが、そこで教祖の咳払いが聞こえ、腹立ちも消えてしまいました。翌朝、教祖から、「四郎兵衛さん、人がめどか、神がめどか。神さんめどやで」とのお言葉を頂いた、という逸話です。

教祖ははつきりと、人ではなく、あくまでも「神さんめどやで」と仰っています。ただ、私自身の悟りは、四郎兵衛はこのことを、教祖、「自身から語られたということ」です。教祖に対する絶対的とも言える信頼があるからこそ、このお言葉が腹に治まったのではないのでしょうか。

もちろん、私たちは教祖とは違います。でも、教祖のひながたをたどることはできます。それがよふぼくのつとめであり、この道の信仰でしょう。

本日をもって、私たちと皆さんは、教師と学生の関係ではなくなります。皆さん自身もまた、それぞれの進路に進んでいきます。でも、明日からはよふぼくとして、私たちは皆、同じ道を歩み始めるのです。

卒業、おめでとう。

もがき続けること、考え続けること

渡辺 優

この三月をもつて天理大学を退職いたします。二〇一四年に着任してから五年間、宗教学科の皆さんと共に学ぶことができたことは、私の人生にとってほんとうに仕合せなことでした。ありがとうございます。

書きたいことはたくさんありますが、天理大学での学びを通じて私が得たことのひとつを以下に記しておきます。

いまとなつては懐かしい思い出ですが、着任当初は、緊張のあまり講義前にはものが喉を通らないような有様でした。なかでも強いプレッシャーを感じていたのは月曜限の天理教学A1/A2です。ほぼ九割は天理教について何も知らないまま入学してくる体育学部の一回生およそ八〇名を前に、できるだけわかりやすく天理教を講義するということ。大教会に育ち、熱心な布教師である会長を父にもつもの、まさしく「門前の小僧」であつた私にとって、正直なところこれはたいへんな重荷でした。最初の二年ほどは日曜夕方から憂鬱な気分になられたものです。

*

ところが、三年、四年と勉強を重ねつつ授業準備を繰り返すなか、月曜一限が逆に楽しみになつてきたのです。これは私自身にとつて大きな驚きでした。

天理教学は、疑い深く素直でない自分を、それでもなんとか説得しようともがき続けることを課すものでした。受講生にどれだけ届いたかはわかりません。しかし、他者に信仰の言葉を届けようとするならば、まず自らの臍腑に落ちるまで吟味しなければなりません。いずれにせよ、信仰の言葉は——天理大学に来ていなければけつしてありえなかつたかたちで——私自身を耕してくれたと思います。

「これをはな一れつ心しやんたのむで」。毎年卒業生にはこの言葉を餞として送つてきました。『おふでさき』に詠われた神の言葉は、信じることを強いるのではなく、「考えてくれ」という言葉で結ばれています。結ばれると同時に、自由な心をもつて考える私たち一人ひとりに開かれています。私たちは考え続けなければなりません。天理大学を卒業することはひとつの終わりであり、同時に新しいはじまりでもあるのです。

平成三〇年度 卒業論文 優秀作

サブカルチャーと宗教

―なぜ聖地巡礼なのか―

松村 理久

コメント

宗教学科教授 岡田 正彦

「聖地巡礼」という言葉と概念に焦点をあて、現代人の宗教性について論じた興味深い論文である。マンガやアニメ、ゲームといった若者文化といわゆる「宗教」の関連性については、すでに多くの指摘がなされている。また、神話や宗教的な偉人に関する知識の多くが、サブカルチャー経由で若い世代に伝わっていることは、多年大学で教鞭をとりながら、しばしば感じてきたことだ。

誰もが漠然と感じているこの傾向について、本論文の筆者は自ら現地調査に向いて確認し、出会った人々や自分の目で見た事実をもとに考察を進めている。こうしたフィールドワークは、実施すれば必ずそれなりの成果は得られるが、なかなか行動に移すことは難しい。また、調査に向いた先で見知らぬ人に声をかけ、アンケート調査に応じてもらうのは決して簡単なことではない。論文の行間の至る所に、筆者の

人徳が滲み出ているように感じるのは、評者だけではないだろう。少し舌足らずな考察や粗削りなアンケートの内容は、むしろ初々しくて微笑ましい。自分の知りたいことを調べていくうちに、少しずつ新たな発見や気づきが重なっていき、疑問に感じていた事柄に自分なりの答えが見いだされていく。こうした謎解きのような体験を味わえることが、論文執筆の楽しみの一つなのである。こうした高揚感とは、一人の思想家を対象を絞って難解な著作を読み解いていくときも、史料の収集と読解を通して歴史的な事実に肉薄していくときも同じように味わえるだろう。筆者が論文執筆を楽しんでいることが、読み手の側にも伝わってくる。

実際に「聖地巡礼」を体験し、自分自身の体験を通して語る言葉には説得力がある。ただ、もう一步踏み込んで、一般論の先に見えてきた事実はなかつたのであるうか。「聖地」や「巡礼」、「お布施」といった言葉は、単なる言葉遊びなのか、それともさらに深い意味を持っているのか。アニメの聖地巡礼と宗教的な聖地巡礼の類似点と差異について、より踏み込んだ見解を述べるためには、「宗教」や「宗教性」という言葉の意味について、もつと深く考える必要があるだろう。言葉のうえで宗教的な表現が使われることと、実際に宗教的行為が行われていることは、決してイコールではない。筆者の見解は決して十分な答えにはなっていないとは言えないが、われわれもこれから一緒に考えたいような、興味深い問題提起をしてくれた。

はじめに

ここ数年の間に、世の中の人々に、最も注目されたアニメ作品の一つとしては、二〇一六年八月公開、新海誠監督の『君の名は。』があげられる。この作品は、その内容や爆発的人気が話題となり、数多くのメディアで取り上げられた。その中には、作品の舞台となった岐阜県飛騨市や、東京のモデルとなった場所を、多くのファンが訪れたというニュースもあり、その作品のモデルとなった場所を訪れることを、各種メディアで「聖地巡礼」と伝えていた。

「聖地巡礼」とは、元々、宗教上の聖地・霊場などを参拝して回ることを指した言葉である。しかしながら、昨今、「聖地巡礼」という言葉を検索すると、本来の言葉の意味する「聖地巡礼」とは、異なる検索結果が得られる。むしろ、アニメやマンガ作品の舞台となった場所を訪れることを意味する、「アニメ聖地巡礼」の方が多い。今では、多くのアニメ作品にその様な「聖地」とされる場所がいくつも存在している。アニメ本編に登場する場所・また、作者に所縁のある場所などがあり、「アニメ聖地巡礼」は、さまざま

まな巡礼ツアーが企画されるほどの人気である。一方、実写映画や実写ドラマのロケ地はどうであろう。その作品の舞台になった場所や、テレビ画面や映画館のスクリーンに映った場所に対しての興味関心なのであれば、実際の場所で撮影が行われた実写映画やドラマなどのロケ地となった場所の方が、「聖地」と呼ばれ易く、ロケ地を見つけることも簡単で、大勢の人々が訪れるようになると思う。しかし、ほとんどの場合そうなっていない。アニメの聖地となっている場所は、実際の場所の名称が変更されている場合が多く、完全に一致していない点では、実写作品のロケ地を探すよりも容易ではないはずだ。しかしながら、実写作品のロケ地よりも、「アニメ聖地」は多くの人が訪れている。ではなぜ、実写作品のロケ地を訪れる人よりも、「アニメ聖地」を訪れる人が多いのか、また、作品の舞台となった場所を訪れることを、なぜ「聖地巡礼」という言葉で説明されているのだろうか。

まずは、「聖地巡礼」という言葉を正しく理解するために、「聖地巡礼」の起源・歴史・各地の聖地について明らかにする。また、「アニメ聖地巡礼」の発祥・展開・問題点・各

作品の「聖地巡礼」について見ていく。実際の「アニメ聖地」に設置されている巡礼ノートも、研究対象として読み解いていく。

研究方法としては、関連文献書籍・ウェブ上の関連文献や関連記事を読み解く。また、一つのアニメ作品を取り上げ、実際に自ら巡礼を体験する。そして、その聖地を訪れる人々を対象にアンケートを行い、結果をまとめる。取り上げる作品は、『宇宙よりも遠い場所』という作品を取り上げる。理由は二点ある。一点目は、二〇一八年一月～三月に地上波でテレビ放送がされ、四月からBSなどの衛星放送での再放送もされており、他の作品よりも「聖地巡礼」をしている人が多いと思うこと。また、巡礼ノートが設置されているため。二点目は、他の作品の聖地は、既に有名観光地の場合も多い。その場合、聖地巡礼者にとつて、観光地とアニメの聖地の二面性をもつことになる。本論文では、観光目的ではなく、純粹にアニメ聖地巡礼をする人を対象に調査したいと考えている。この作品は、有名観光地だけではなく、公園やコンビニが作品に登場し聖地となっており、アニメ聖地巡礼として訪れる人が高いと思うこと。

以上の点から、この作品を取り上げて調査したいと考えている。

これにより導き出せる結論は、実写作品・アニメ作品ともに、熱狂的に興奮していたものが最終回を迎え、何者にも代えがたいものを失うある種の「喪失感」を人々は味わう。実写作品は、終わりを迎えたとしてもキャラクターではなく、演じた俳優・女優へと興味関心を向けることで、喪失感を補填することが出来る。一方、アニメ作品は、放送が最終回を迎えた時に、人々はその喪失感を埋めるべく、作品・キャラクターの関連グッズ購入や「聖地巡礼」をすることで、喪失感を補っていると推測する。よって、キャラクター・作品の世界観が聖なるものとなり、アニメ作品自体が一つの新しい宗教のようなものとして認知され、その聖地を巡ることは、ごく自然な行為になるだろう。このことが、作品の舞台・作者に関連した場所を巡ることを総称して、「聖地巡礼」と呼ばれる所以ではないだろうか。

第二章 「聖地巡礼」について

第一節 「聖地」とは

「聖地」と聞くと、どのような場所を思い浮かべるだろうか。宗教の聖地、オタクの聖地、恋人の聖地、アニメの聖地などさまざまな聖地が挙げられる。聖地とは、本来宗教的な言葉であるが、現在では多くの場面でこの言葉が聞かれるようになった。本来の意味を確認するため、本論文では、まず宗教の聖地について見ていく。

広辞苑では、「神聖な土地。神・仏・聖人などに関係ある土地。」という簡単な説明がなされている。大まかにいうと、一つの宗教における奇跡が起こったとされる場所、教会やお寺といった宗教施設、聖人や聖遺物などと関係のある場所である。岡本亮輔『聖地巡礼』には、次のような記述がある。

日本では、弘法大師・空海が開創したとされる諸寺を巡る四国遍路(四国八十八ヶ所)や、神や先祖の霊が住むとされる各地の霊山への登拝もこの定義にあてはまる。キ

リスト教では、イエスの生誕地ベツレヘムや、イエスが十字架に処されたエルサレムがもつとも重要な聖地であることも知られている。(1)

さまざまな聖地が存在するが、そのどれもが聖書など宗教の経典・逸話や宗教史などに登場する場所であり、必ず何らかの物語が付随している。岡本亮輔『聖地巡礼』には、次のような条件が挙げられている。

神や仏の様な超越的な存在との関わりが、その場所を聖地に変える条件とされている。要するに、聖人・神・精霊といった超越的存在と場所を結びつける物語によって聖地は成立する(2)

このように、土地や場所・建物のみが存在しているだけでは、聖地と呼ばれることは無いのである。神話などが人々に広く認知されることにより、神話に登場する場所が聖地として成立する。

第二節 「聖地巡礼」の特徴

次に、聖地巡礼の特徴について見ていく。広辞苑では「聖地巡礼とは、宗教上の義務観念によつて、または加護・恩恵を求める目的で、聖地または本山所在地を順次に参拝すること。札所の巡礼、イスラム教徒のメッカ巡礼、キリスト教徒のパレスチナ巡礼の類。」とされている。聖地として成立している場所では、巡礼者は参拝することが目的になるのが普通なのだが、さまざまある聖地で巡礼者は、聖地そのものではなく、聖地に到達するまでのプロセスに価値を見出しているように感じられる。

キリスト教サンディアゴ巡礼を例を見てみよう。岡本亮輔の『聖地巡礼』には、

インタビューや無数の巡礼記からは、他者との交流体験つまり巡礼者仲間との出会いや別れに高い価値が置かれている様子がうかがえる。サンティアゴ巡礼において、こうした点を端的にあらわしているのが、オスピタレーロと呼ばれる役割である。オスピタレーロは巡礼宿を管理し、巡礼者の受け入れ業務に携わる人々である。多く

のオスピタレーロは、彼ら自身がすでに何度か巡礼証明書を取得した経験者である。食事準備・巡礼者受付・清掃などの仕事をこなし、自身の体験を元に巡礼者に助言しながら、二週間から一カ月程度スタッフとして働く。

どこかの巡礼宿でオスピタレーロとして働くことが決まった場合、多くの人は宿に直行するのではなく、勤務開始の日に間に合うように巡礼を始める。そして、一定期間オスピタレーロとして働いた後に、再び巡礼者となってサンティアゴまでの残りの巡礼を再開するのである。巡礼のベテランになればなるほどオスピタレーロとして巡礼路に滞留し、ゴールへ向かう速度を落としたがる。中には何度も巡礼を行った末、仕事を辞めて、自分自身で巡礼宿を営むために巡礼路沿いに外国から移住する人もいるのである。(3)

と記述されているように、日常では関わることのない人と触れあうことを目的にしているようである

サンディアゴ巡礼では、聖ヤコブの遺骸が祀られているサンディアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂に参拝すること

を目的として巡礼を行う。基本的に巡礼者は、決まった巡礼路をさまざまな方法や動機で巡礼をしている。聖地には、必ずその聖地に付随する物語がある。しかし、サンディアゴ巡礼では、聖ヤコブについての物語は存在しているが、大聖堂に至るまでの巡礼路自体には、奇跡物語などは存在していない。

この聖地巡礼では、物語に沿った行動をするのではなく、あくまで、聖遺物の参拝・崇敬を最大の目的としている。しかし、聖地に至るまでのプロセスを楽しむんだりすることが、このサンディアゴ巡礼の聖地巡礼の特徴だと言えるだろう。

第三節「アニメ聖地」とは

宗教的な聖地では、神や仏、聖人といったものが現れた場所と、その場所に現れた神、仏に関する物語が存在し、広く認知されることで聖地になるとのことだった。

それでは、アニメ聖地の場合はどうか。アニメ聖地の場合も、聖地と呼ばれる方から、宗教的な聖地と同じような現象起きていると考えられる。しかし、実際は、現実世

界にキャラクターが現れたわけではない。現実の場所をモデルにしたアニメの背景絵に溶け込む様に、アニメキャラクターが同じ絵として登場している。私たちが生きている現実世界に現れる存在ではなく、キャラクターが現実にある風景を描いた絵に重なっているだけであり、神や仏などの聖なるもの・スピリチュアル的な存在ではなく、あくまでキャラクターとしての登場だ。しかし、人々は、アニメ本編に出てくる場所を聖地として巡礼している。アニメ聖地自体に物語が付随しているが、キャラクターは絵であり、もともと聖なるものやスピリチュアルな存在ではない。では、アニメ聖地とは、どのような定義づけがなされているのか。酒井亨の『アニメが地方を救う』には、次のような記述がなされている。

- 一・アニメ作品の舞台地・舞台のモデル地・ロケ地など、またはその作品・作者・出演者・制作会社に関する土地。
- 二・ファンが作品へのオマージュを捧げることができる場所。作品全体を体で実感・経験できる場所。
- 三・誰が何を言おうと、大切なものを大切だと言える場所、好き

なものを好きだと言える場所、それが許される場所。聖地では、登場人物の人生や感情を追体験したり、印象に残る場面を再現再演したりする。(4)

このように、アニメ聖地とは、アニメ作品に関わる場所・もの・ことを大切にできる場所なのである。

そして、自らのプライベート空間以外で、作品へのオマージュを捧げることや、好きなものを好きだと公の場で言できるは、アニメ聖地だけだろう。また、普段関わることのない人々とも関わることができ、自らの作品愛、相手側の作品愛を共有することができる場所だといえるだろう。

アニメ聖地では、アニメ制作側ではなく、ファンが自ら聖地を見つけ出すところから聖地巡礼が始まっており、聖地を見つけ出しその情報を拡散する者、その情報を手掛かりに聖地巡礼をする者、その聖地巡礼が話題となり、別のメディアで取り上げられたことにより、情報を入手した者が聖地巡礼をするという形が出来上がっている。このような面でも、アニメ聖地は、今までにない特殊な現象だといえるだろう。

第四節「アニメ聖地巡礼」の特徴

アニメ聖地巡礼では、宗教的な聖地巡礼とは異なる要因で、巡礼がされていることが確認できた。その理由の中に、「単純接触効果」というものがあるとされている。岡本健の『コンテンツツーツーリズム研究』では次のように取り上げられている。

認知心理学の理論の「単純接触効果」(mere exposure effect) というものがある。この現象は、ある対象に繰り返し接触することによって、その対象への好感度が上昇するというものであり、一九六〇年代から報告されている。(5)

一回目より二回目の好感度が上がり、さらに回数を重ねることにより好感度があがるというもので、

視覚や聴覚など感覚からの情報は、見聞きした自覚がなくとも、無意識のレベルで処理されて、知らず知らずのうち判断や行動に影響を与えている。当然、アニメ視

聴場面でも、同じことが十分に起こりうる。しかも、ア

ニメ視聴場面は単純接触効果の実験の実験状況と多くの共通点を有している。テレビアニメ作品は、週一回のペースで放映されていることが多い。つまり、アニメ視聴者にとっては、毎週決まった時間に同種の刺激提示が繰り返されていることになる。単純接触効果の実験では刺激の最大提示回数を一〇回〜二〇回程度に設定しているものが一般的である。この提示回数は、偶然にも一、二クールにわたるテレビアニメの放映回数と似ている。こうした共通点からも、単純接触効果のような認知心理学で研究されてきた現象が聖地巡礼行動に関わっている可能性は十分に考えられる。(6)

一般的に、こうした要因で、アニメ聖地巡礼をしている、という自覚を抱く人はいないだろう。だが、これも宗教的な聖地を巡礼する人とは異なる、アニメ聖地巡礼の特徴だろう。

また、同じく、岡本健の『コンテンツツーリズム研究』では、アニメ聖地巡礼をする人の特徴を次のように記述し

ている。

アニメ聖地巡礼を行う旅行者について、アニメ聖地4か所で二〇〇九年に実施したアンケート調査で得られた一〇九二のデータから、その全体像を示したい。性別と年齢については、男性が全体的の九〇%以上を占め、一〇代から三〇代を合計するとやはり九割以上となる。移住地は、聖地によって異なるものの、全国各地からの来訪が見られ、海外からの来訪者もいることが確認されている(岡本、二〇一一)。次に、聖地巡礼の行動的特徴を見ていきたい(岡本、二〇一〇)。アニメ聖地巡礼の動機形成は、アニメの視聴と関連情報の取得によって起こる。そして、現在では、さまざまな行動的特徴を見ることができ。まず、アニメの背景となった場所でアニメと同じアングルで写真を撮影することが挙げられる。その際は、風景だけを撮影する場合や、キャラクターと同じポーズで写真に写り込む場合、フィギュア等のグッズとともに撮影する場合などさまざまである。次に「聖地巡礼ノート」や「痛絵馬」といった、テキストやイラ

ストを用いた表現物を現地に残す。そして、自動車にアニメのキャラクターをあしらった「痛車」で現地に訪れる巡礼者や、キャラクターの扮装をする「コスプレ」をアニメ聖地で楽しむ巡礼者もいる。また、アニメグッズを地域に持ち寄り、地域の施設や商店に寄贈していく現象も見られる。このように、アニメ聖地では、聖地巡礼者それぞれの表現が表出し、表現物が蓄積されていく。聖地巡礼後には、「巡礼記」として、ウェブサイトやブログ記事などで頒布したりする巡礼者もいる。こうした事後的な情報発信の中には、アニメ聖地におけるマナーの啓発に行ったものも多く、旅行者自らが自立的なふるまいを促している(岡本二〇〇九b)。(7)

アニメ聖地巡礼は、多くの場合が作品に登場した場所で、その聖地に至るまでのプロセスの段階を楽しむことは無く、聖地でキャラクターと同じ様なポーズで写真を撮ったり、キャラクターの格好に扮して聖地を巡る、という行為をしており、巡礼者は積極的に聖地の物語に触れていることがわかる。さらに、自らが持参したキャラクターグッズなど

をその聖地に置いていくことで、自らの居場所をつくらうとしている。アニメ聖地巡礼は、巡礼者が決まった形ではなく、巡礼者個人の思惑でグッズなどを現地に置いていくなど、さまざまな形で変化を加えることのできる、いわば浸食可能な聖地巡礼だといえるだろう。

第二章 「アニメ聖地巡礼」の展開

第一節 アニメの歴史

まず、アニメの歴史を見ていく。酒井亨の『アニメが地方を救った』によると、

日本の国産アニメは大正時代の一九一七年に最初に制作された。そして戦後、一九五六年に東映動画が設立され、長編アニメ「白蛇伝」が初めて、教育や宣伝用でなく、商業用でしかも全編カラーによるフル・アニメーションとして制作され、その後、年一本のペースで長編を制作し、日本をアニメ大国とする基礎を作った、とされる。また手塚治虫による虫プロダクションは一九六二年に設立され、一九六三年放映開始のテレビアニメ「鉄腕アトム」を制作した。「アトム」は、いまでは、常識化した「毎週一回三〇分の連続放映アニメ」という国内外で最初のモデルを作ったものであり、同時に漫画原作のテレビアニメ化という流れを生んだ。これが第一次ア

ニメブームを形成した。(8)

このように、現在では当たり前のようになった、週一回三〇分の連続放映というアニメの形が誕生し、現在までのアニメブームが始まった。

次の転機は、一九七四年放映開始の「宇宙戦艦ヤマト」であり、これによって一九八四年まで第二次アニメブームが起こった。しかも「ヤマト」以前のアニメは子供向けであったが、これは始めて中高生を含む青年層に支持された。さらに「機動戦士ガンダム」などの巨大ロボットアニメものは、勧善懲悪ではなく、敵側にも葛藤や正義があるという複雑かつ屈折したストーリーや世界感が表現された。(9)

この時期から、アニメは子供が見るものという固定観念はなくなり、子供から大人まで幅広い年齢層に支持される様になっていく。

二〇〇〇年代に入ってからからは、アニメ制作はセル画からコンピュターに移行するとともに、一九八〇年代から見られたアジア諸国への動画などの下請け・外注が普遍化するようになった。そして京アニ版「AIR」によつて精密な作画が登場し、その後の深夜アニメは作画の精密さを競うようになった。作画の精密さはリアルさとつながることから、現実の風景から取材するロケーションハンティング（ロケハン）が増加するようになり、それがこの本の主題である「アニメ聖地巡礼」につながっていく。アニメ制作本数そのものは、二〇〇〇年代になってから増加傾向にある。二〇〇六年に最初のピークが訪れ、その後はいったんやや減っていたが、二〇一一年からは年間二〇〇本を超えるペースで推移している。

(10)

第一次アニメブームを巻き起こした「鉄腕アトム」によつて、毎週放送や漫画原作のテレビアニメ化のモデルが作られた。また、アニメは子供の見るものという観念を壊し、二〇〇〇年代から、テレビアニメの数自体が増えたことに

より、作品のリアルさをより追及することが求められ、さまざまな作品でロケーションハンティングが急増した。その結果、「アニメ聖地巡礼」という現象が生まれることになったといえるだろう。

第二節「アニメ聖地巡礼」はいつごろから始まったのか

それでは、一体いつごろから、人々はアニメ聖地巡礼をするようになったのか。ここでは、アニメ聖地巡礼の発祥について見ていく。

アニメ聖地巡礼の元といわれているのは、二〇一二年放送の「らき☆すた」という作品である。アニメ聖地巡礼と言えば、「らき☆すた」だといっても過言ではない作品だ。「らき☆すた」は、版權元と舞台になった鷲宮神社と、周辺の商工会などが共同で、さまざまなイベントを企画し、何度も多くのファンを集めており、ファンの盛り上がりも含め、ネット上では、聖地巡礼の原点だと言われている。

しかし、当時、「聖地巡礼」と称されることは無くとも、現在のアニメ聖地巡礼と同じ様な現象が起きていたとされる作品がある。その作品は、『究極超人あぐる』（一九九一

年)という作品である。この作品は、ゆうきまさみによる漫画原作のOVA(オリジナル・ビデオ・アニメーション)という形で、公開された作品である。テレビでの放映はされておらず、DVDでのみ販売されていたアニメで、毎週放送という訳ではない。現在のアニメ業界では、あまり見られることのない形のアニメである。

アニメ本編に登場した聖地、「アニメ聖地巡礼発祥の地」とされているのは、長野県上伊那郡飯島町田切駅である。ウィキペディアによる作品概要の説明では、

私立春風高校を舞台に「光画部」(こうがぶ、一般にいう写真部)に属する生徒・OBたちとその週辺で起きるさまざまな珍妙な(ある種非常識な)出来事を描いた学園コメディ漫画。(略)本作の舞台である春風高校はごく普通の高校だがどこか変人が集まっており、中でも光画部は(OBも含めて)特に個性豊かな人々が集まっている。(二応)主人公であるR・田中一郎は、マッド・サイエンティストが世界征服のために作った、(あらゆる意味で)人間同等のアンドロイドという非常識極まり

ない存在であるが、登場人物たちにあっさりと受け入れられているばかりでなく、周りのあまりにも非常識な人々の前では、非常に影が薄い。作品中には当時の時事ネタや特撮・アニメネタなど豊富に織り込まれており、解る人には大笑い、解らない人にも何となく笑えてしまう話の作りが人気の源である。

と説明されている。

この作品は、公開されてから二十年近くもたつが、放送

図1 2018年8月15日 撮影



直後から二〇一八年の現在も絶えることなく、聖地巡礼をする人々が存在している。

また、「アニメ聖地巡礼発祥の地」を記念して、平成三〇年（二〇一八）七月二十八日に、「世界一学生服の似合うアンドロイドのファン有志一同 撰文 発起人 牧田豊」名義で、記念碑が舞台の田切駅近くに建立されている（図1）。

記念碑の表面には「アニメ聖地巡礼発祥の地」の文字と共に、「究極超人あぐる」を彷彿とさせるイラストが彫られており、裏面には、この地にこの記念碑を建てた理由が刻まれており、ひらがなで「きゆうきよくちようじんあぐる」の文字が強調されている（図2）。また、同駅にはファンが設置した巡礼ノートもあり、コメントをはじめ、駅の風景絵など、多く寄せられている（図3）。

第三節 急増するアニメ聖地

アニメ聖地巡礼が始まったのは、一九九一年頃だということだ。ではなぜ、今まで「究極超人あぐる」が多くのメディアで取り上げられなかったのか。その理由の一つは、ここ数年で、アニメ聖地巡礼が注目されるようになったか

図2 2018年8月15日 撮影

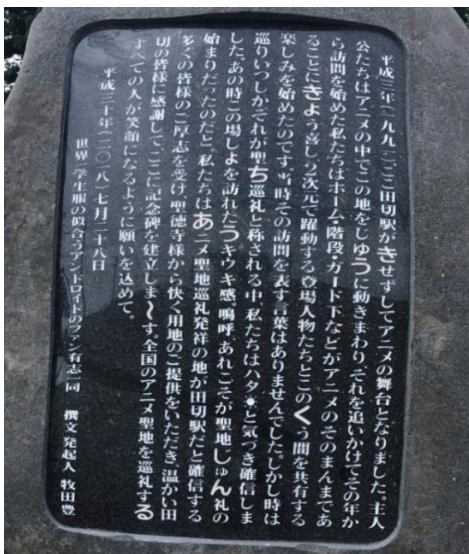


図3 2018年8月15日 撮影



らではないか。なぜ、注目されるようになったのか。やはり、アニメ聖地が急激にその数を増やしたからだろう。酒井亨の『アニメが地方を救う』では、次のように整理している。

一九七〇年代以降にアニメにおいても洋画の影響なのか「内面のある人間像」、つまり説得力を持った人間像を描く必要性が高まり、そのため背景や環境描写にも説得力を持たせるべく「リアル」な映像が描かれるようになったことが挙げられる。「アルプスの少女ハイジ」（1974年）などでは、ロケーションハンティング（ロケハンと略されることが多い）によって現実の場所を取材し映像に反映される手法が始まった。さらに2000年代になって、それまでのセル画ではなく、デジタル制作が一般化したことで、深夜アニメが量産できるようになってからは、デジタルの緻密な画質を生かす手段としてますます映像のディテールにこだわるようになった。

(11)

つまり、キャラクターの内面が以前よりも、より厚みのあるものが好まれるようになった。そして、それに見合うキャラクターの外見とともに、リアルな背景も同じように求められるようになった。さらに、デジタル制作が可能となった二〇〇〇年代から深夜アニメが量産できるようになり、さまざまな作品でロケハンがなされるようになった。

また、岡本健の『n-th CREATION TOURISM』には、次のようなことも指摘されている。

三つのブームを経た二〇〇〇年代後半には、日常系アニメと呼ばれる作品群が人気を博す。本書でも取り上げる『らき☆すた』や『けいおん!』などがそれに含まれる。現代日本を舞台にし、美少女キャラクター達の他愛のない会話や日常生活を描いており、物語性が希薄なのが特徴である。では、この日常系アニメには、何が求められているのだろうか。それは、他者とのコミュニケーションであると考えられる。現代社会では、他者性を持った他者との交流が希求されている。だとすれば、一人一人のキャラクターが個性をもって独立し、対話すること、

それ自体が望まれているのではないだろうか。これは極めて当たり前のことのようなのであるが、むしろ、こうした当たり前のコミュニケーションこそ「非日常」であり、最上のフィクションになっている可能性がある。(12)

このように、現代人は他者との交流が希薄だと指摘されており、コミュニケーション自体が減っている。その一方で、フィクションであるアニメキャラクターは、日常のコマとして、自然にコミュニケーションをとっている。このこと自体が、現代人にとっては非日常として受け取られているのである。日常系アニメは他のジャンルのアニメより、現実にある場所をモデルとしていることが多い。それにより、アニメ聖地が増したのだろう。

第四節 さまざまなアニメ聖地

宗教的な聖地は、世界にいくつも存在している。アニメ聖地もまた、アニメ作品の数と同じように、さまざまアニメ聖地が存在している。

「らき☆すた」、「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らな

い。「君の名は。」など有名なアニメ聖地をはじめ、多くのアニメ聖地があり、その中には地域と結びついて町おこしに成功したものも多い。

「らき☆すた」(二〇〇七)では、版權元と鷺宮神社や商工会が共同でイベントを企画し、現在もなおファンが訪れている。さらに、この盛り上がりメディアで取り上げられるなど、典型的な、アニメ聖地巡礼の成功例であるといえる。このように、聖地巡礼には多くの成功例がある中、メディアに取り上げられたことによって、ネット上で失敗だとささやかれた作品もある。酒井亨の『アニメが地方を救う』によると、

千葉県最南端安房地方の鴨川市は、毀誉褒貶が激しいアニメ「輪廻のラグランジェ」(ラグりん)の聖地である。

「ラグりん」の毀誉褒貶のうちマイナス面は、主にNHK総合テレビ「クローズアップ現代」二〇一三年三月七日の「アニメを旅する若者たち」聖地巡礼の舞台裏²⁾で、各話のタイトルや作中で「鴨川」が連呼されたことについて、「あざとい」などとネット酷評されたことを紹介

し、「聖地化に失敗したアニメの典型」のように仕立てられたことである。天下のNHKでそのように報道されたことの影響は大きかった。(13)

このように、メディアによる報道は、必ずしも聖地にプラスになるといえることはないようだ。

NHKのクローズアップ現代でのマイナス報道は痛手だった。しかしそれで離れたファンもいたが、それでも残ったファンはむしろ確固として作品と鴨川市を愛してくるので、むしろ意識という意味で質が上がったと言える。大事にしたい。アニメに関連する鴨川エナジーも発売以来順調に売り上げを伸ばしている。二〇一五年五月一日には聖地ツアーも実施し、お人が参加した。今後もコアなファンを大事にしていきたい(14)

しかし、この聖地では、マイナスの報道がされた結果、聖地とされた地域で受け入れる側の意識が向上し、思わぬ形でプラスとなった。

また、アニメ聖地巡礼の特徴の一つとして、聖地巡礼するアニメファンはマナーが良いとされているのだが、そのマナーについてSNSやネットで、問題にされている作品も存在する。

その作品は、二〇一八年一月から三月にかけて放送された、「ゆるキャン△」という女子高生がゆるゆる冬のキャンプを楽しむ姿描いた作品である。聖地としていくつものキャンプ場があり、登場するキャンプ場を訪れるファンも数多くいた。その聖地の中で、キャラクターがキャンプをしていた場所が、実際の場所では立ち入り禁止の場所であるにも関わらず、ファンがキャラクターと同じ場所でキャンプをするなど、聖地を訪れたファンのマナーが悪いことが問題になっている。

第五節 実写作品のロケ地とアニメ聖地巡礼

聖地巡礼は、宗教的なものと、アニメ聖地巡礼が、一般的に認知されていることが確認できた。アニメ聖地巡礼では、アニメ本編に登場した場所を巡っている。これは、アニメ作品にだけ、当てはまることではない。テレビドラマ

や実写映画などの舞台やモデルとなった場所を巡る行為も、聖地巡礼と呼ばれていても不思議ではない。ここでは、実写作品のロケ地を巡る行為について見ていく。酒井亨の『アニメが地方を救う』¹⁵では、次のようにまとめられている。

もともとドラマ、特にNHK朝ドラは典型だが、放送期間が終了した途端、急速に観光客がやって来なくなる傾向もある。岩手県北三陸地域を舞台にした二〇一三年度上半期の朝ドラ「あまちゃん」は近年最大のヒットドラマの一つで、岩手経済研究所が二〇一三年八月に発表した二〇一三年の年間推計では、ロケ地の久慈市を抱える岩手県全体は「あまちゃん」効果で観光入込客増加が三四・四万人、経済効果を三二億八四〇〇万円。だが放映が終わると急速に減ってしまったらしい。(15)

ドラマ放映中は、ロケ地になった場所に多くの観光客が訪れるが、放映後は急激に減ってしまうというところらしい。これについては、次のことが言われている。

この原因について、関係地が口を揃えるのは、NHKの著作権管理の厳しさで、放映期間中も利用についてはいろいろ条件をつけてくるうえ、放映後の利用は基本的に認めない方針にしているためだという。(16)

この件に関して、NHKに限った話ではあるが、著作権の問題が他のコンテンツよりも厳しいため、一時的な盛り上がりになくなっていない。また、アニメ聖地巡礼と実写作品のロケ地巡りとの違いについて、酒井亨『アニメが地方を救う』¹⁵では、次のように説明している。

筆者が取材で回った各地のFC担当者は、アニメに詳しい人もいたりするのだが、彼らによれば、「実写のドラマや映画だと、風景そのままでもネットや本で写真を見ているのと変わらないので印象が薄れやすいが、アニメの場合は、背景や人物の輪郭がはっきりしていて、空間に対する想像力をかきたてて、横にひろげられ、潜在的に心に響きやすい。またアニメの場面と実際とは微妙に異なっている場合も多いので、何度訪れても異なる想像と

発見が生まれるので、「リピーターになりやすい」という。

(17)

ドラマや実写作品では、登場する背景などが、雑誌やネット等で見ているのと変わらないため、印象が薄れやすい。一方、アニメ聖地では、実際の場所がアニメの描写と微妙に異なっていたり、キャラクターや背景の輪郭がはつきりしているため、印象が強くなるということだ。そのため、アニメ聖地では、何度も訪れるファンが数多く存在する。

また、実写作品のロケ地では、家庭用ビデオカメラ等をはじめ、スマートフォンのカメラ機能を使用すれば、だれでも簡単にテレビ等で見たような映像を撮影することができる。さらに、その映像をSNSやYouTubeなどの動画共有サイトで、簡単に世界へ公開することができ、発信側となることが可能だ。一方、アニメ作品では、莫大な時間と多くの人の手間がかかっており、個人や少人数で同じようにアニメーションを作ろうとしても、決して作り上げることはできない。だからこそ、アニメ聖地巡礼をする価値があると感ずるのだろう。

第三章 「アニメ聖地巡礼」の実態

第一節 「宇宙よりも遠い場所」について

本論文では、一つのアニメ作品を絞り、筆者自身も「聖地巡礼」を体験することで聖地巡礼をする人々を理解しようとする。聖地巡礼を行った。その際、聖地巡礼をする人々との限り同じ条件になるよう、筆者も一視聴者として、毎週放送で同じ時期に作品を見たこと、また、前述した有名観光地ではない場所が聖地になっている作品を考慮した結果、この「宇宙（そら）よりも遠い場所」（以下「よりもい」という作品にした。

この「よりもい」という作品のあらすじは、主人公・玉木マリ（キマリ）は、何を始めるにも、一歩踏み出すことのない女子高生。そんなキマリだが、元南極観測隊員の母を持つ、小淵沢報瀬（しらせ）と出会い、共に南極を目指すことを決意する。しらせの母・小淵沢貴子は、民間南極観測隊員として、南極で研究をしていた。研究をする中で、南極のブリザードを受け、遭難してしまう。その報告を受

けたしらせは、母のいる南極を目指しはじめた。南極へは、一般人は普通行くことが出来ないとされている。しらせは、周りの人々にバカにされながらも、負けずにお金を貯め、民間観測隊員に連れて行ってもらおう計画を練る。一〇〇万円を貯めることができたのだが、その一〇〇万円を落とし、更には、キマリと同じコンビでアルバイトをしていた、三宅日向（ヒナタ）と、女子高生タレントが、南極に行くというテレビの企画で、もともと南極に行くことが決まっていた、白石結月（ゆづき）を加えた4人の女子高生が南極に行くという物語である。

物語序盤の舞台となった群馬県館林市は、ツツジの名勝・つつじが岡公園や、全国的に有名な、分福茶釜の物語で知られる茂林寺、東武トレジャーガーデン、群馬県館林美術館、製粉ミュージアムなどの観光地がある。よりもいでは、この館林市が、主な聖地としてファンの間で巡礼されている。

第二節 「よりもい」聖地巡礼体験記

この作品は、「女子高生 南極に行く!」と言うキャッチフレーズで、本編にも南極をはじめ、観測船の一般公開が行われていた広島県呉市や、飛行機の乗り継ぎで訪れたシンガポール、また、何度も東京を訪れており、聖地とされている場所は多く存在する。物語の中心自体は南極ではあるが、南極に向かうまでの前の段階では、キャラクターたちが住んでいる、群馬県館林市の多くの場所が鮮明に描かれており、この作品での聖地となっている。

二〇一八年八月二四日

東京都立川市 「よりのもい」 聖地巡礼 一日目

本編三話に登場した、国立極地研究所を訪れた。夏休み期間という事もあり、親子連れや年配の方も多く来場していた。キャラクターの写った本編の場面カットも、一緒に飾られており、一通り見て回った。(図4)

その後、受付の方々に、お話しを伺うことが出来た。アニメ放送前と放送後では、大幅に来場者が増加した訳ではないということだった。しかし、一時的ではあるが、来場者の年齢層は下がり、男性の来場者が増えたということだ

った。

また、「よりのもい」関係のイベントが開催されると一日に、三〇〇〇人が訪れたこともあったという。

図4 2018年8月24日撮影



その後、東京から群馬県館林市に移動。本編に、エントランス部分と向かいのパチンコ店の入り口が登場した、ニユーミヤコホテル館林に宿泊した。フロントで、「よりもい」について伺ったが、何の目的で館林を訪れたかまでは伺うことは無いため、「よりもい」の影響で、大幅に宿泊客が増加したか、はつきりとはわかっていないということだった。しかし、向かいのパチンコ店やホテルのエントランスに、カメラを向けるファンと思われる人の姿は、よく目にするようになったとのことだ。

また、館林市役所の観光課に立ち寄り、アニメ放映前と放映後で、観光に訪れた人の数に変化があったのか伺った。平成二九年四月～六月と、平成三〇年四月～六月の推移を教えて頂いた。平成二九年が、九二二、六〇九人、平成三〇年が、八八八、五六八人と、放映後の方が館林市を訪れた人数が少なかった。職員の方の話によると、「二九年は、つじまつりの影響で多くの方が観光に訪れていた」とのことだった。

八月二五日

群馬県館林市 「よりもい」聖地巡礼 二日目
館林駅前、本編にも登場し、巡礼ノートが設置されている、カフェ・ド・スタールを訪れ、アンケート設置のお願いをした。(図5)

図5 2018年8月25日撮影
カフェ・ド・スタール店内の様子



そこで聖地巡礼をするであろう、ファンの方々とお会いし、直接アンケートの協力をお願いすると、快く引き受けてもらえた。

その後、店を後にし、巡礼マップを配布している、アイムエステートという不動産会社にお邪魔し、巡礼マップを頂いた。その店舗でもお話を伺ったところ、作品の本編に登場することは無いが、「よりもい」の聖地巡礼をしに来た人に記念として、オリジナルグッズを制作し販売していたが、のちに、著作権元の KADOKAWA から公式グッズとして認可された、レザークラフトコテージというお店を紹介して頂いた。そのお店にも、巡礼ノートが設置されていた。そちらの店主からもお話を聞くことが出来た。店主は、次のことをお話し下された。

「二月六日から、オリジナルグッズを販売するようになった。販売するようになってからは、週に一〇人〜三〇人が来店する様になった。放送中の一月〜三月よりも、放送終了の四月からが多く、ゴールデンウィークの時期が最も多かった。海外からのファンも巡礼しており、台

湾や北海道から訪れる人もいた。」(18)

また、なぜ、公式グッズとして認可を受けようとしたのかを伺うと

「ファンの方は、著作権元の KADOKAWA にお金をおとしたいと思っている。イベント開催や、続編が制作されるという可能性もあるから。どうせ買うなら、モグリ(認可を受けていないもの)にお金を払うのではなく、KADOKAWA にお布施したいと思う人が多いから認可される必要があるとおもった。」(19)

とのことだった。店主からは、「よりもい」聖地巡礼記念のステッカーを頂いた。また、店内には、ファンの方が持ち寄ったグッズや、地元のお土産なども置かれていた。

その後、本編で、キマリとしらせが、話し合う印象的な場面の聖地にもなっており、巡礼ノートが設置されているつじが岡公園の東屋を訪れた。(図6)

巡礼ノート(図7)を確認していると、ファンの方々

図6 2018年8月25日撮影 東屋



思われる男性三人組が東屋に来られた。その中の一人は、登場キャラクターのヒナタが着用していたTシャツと、同じデザインのTシャツを着て聖地巡礼をしていた。その方々にもアンケートをお願いすると、また快く引き受けて下さった。

図7 2018年8月25日撮影 巡礼ノート



図8 2018年8月25日撮影 茂林寺駅前



ファンの方々を後にし、次は、茂林寺駅(図8)へと向かった。

だと感じた。

親御さんは、次のようにお話し下さった。

八月二十六日

群馬県館林市 「よりもい」聖地巡礼 三日目

最終日のこの日は、本編に何度も出てきた場所や、オーブニング映像に登場した館林駅周辺を回った。その後、本編には登場していないが、レザークラフトコテージと同じように、巡礼ノートと、「よりもい」コーナーが設置されている、「ラーメン厨房 ぽれぽれ」というラーメン店にも立ち寄った。(図9)

埼玉県在住で、ここへは、五〜六回程訪れている。そこまで、遠くない場所で、巡礼ノートもあり、人も集まりやすいからよく来ている。作品が好きなので、何にか聖地に出来ることは無いかと考えたが、この地域に、お金を落とすことで、貢献できると思いつて訪れている。(20)

親御さんに、お話を伺っている間も娘さんは、巡礼ノートを一生懸命に書いていた。この「ぽれぽれ」での調査を最後に「よりもい」の聖地巡礼を終えた。

第三節 聖地巡礼者アンケートのまとめ

今回、聖地巡礼を自ら行ったが、それだけでは筆者のみ の見解になるため、聖地巡礼者を対象にアンケートを実施した。

着用している、たこさんウインナーTシャツを着用しており、カバンやキャップにも、「よりもい」関連の缶バッジがいくつも付けられていて、まさに聖地巡礼をする人の特徴

主な目的は、巡礼者の属性(年齢・居住地)、作品関連グッズ購入の有無。および巡礼の動機・目的の調査。また、他

の作品、実写作品のロケ地巡りの経験の有無の調査である。巡礼期間中に、「よりもい」聖地として巡礼者が、必ず訪れるであろう場所に、アンケートを設置した。しかし、ただ置いてあるだけでは、アンケートに答えてもらえないことはなかった。巡礼記にも記した通り、直接会って話すことのできた五人の巡礼者の方には、アンケートに答えて頂けた。その五人のアンケート結果をまとめる。

調査項目

- 問一 あなたの年齢・性別を教えてください。
- 問二 あなたのお住まいを教えてください。
- 問三 『宇宙よりも遠い場所』というアニメをご存知ですか。
- 問四 どのような目的で来られましたか。
- 問五 『宇宙よりも遠い場所』をご存知の方に聞きします。『よりもい』のDVD等の関連グッズは購入されましたか。購入している方は何を購入されましたか。
- 問六 なぜここを訪れようと思いましたが。
- 問七 本日、聖地巡礼で訪れた方に伺います。今回、巡

礼で何を感じましたか。

問八 他のアニメ作品の聖地を訪れたことはありますか。

また、その作品は何ですか。

問九 実写作品のロケ地を巡ったことはありますか。またその作品は何ですか。

問一〇 実写作品のロケ地巡りを行った方にお伺いします。なぜ、ロケ地巡りをしようと思いましたが。

このような、一〇の間を留意した。

以下は、上記のアンケート調査の結果をまとめたものである。

調査結果

- 問一…年齢、三五・三六・四〇・四六・五〇歳、性別、全員 男性。
- 問二…東京一人、茨城一人、沖縄三人。
- 問三…全員が「よりもい」を知っていると回答。
- 問四…「聖地巡礼」一人。「アニメの舞台巡り」、「アニメの舞台を実際に見てみたいと思った」、「巡礼」各一人。

問五：「ブルーレイ」、「Tシャツ」、「缶バッジ」、「サントラ」、「レザークーホルダー」。

問六：「好きなアニメの舞台を見たい」、「アニメの登場人物と同じ空気を感じたかった」、「アニメの聖地だから」、「地元から近いから、友人を案内するため」、「友人との観光」。

問七：「アニメの世界に立てた気がして嬉しかった」、「地元も舞台となったアニメを大切にしていると思った」、「館林は沖縄よりも厚い」、「暑くて軽く死ねますね」。

問八：「ふらいんぐういっち」、「のんのんびより」、「中二病でも恋がしたい」、「涼宮ハルヒの憂鬱」、「けいおん!」、「ヤマノススメ」、「たまゆら」、「かみちゅ!」。

問九：五人中四人が、「なし」と回答。一人は、NHKの連続テレビ小説や、大河ドラマなどと回答。

問一〇：「作品に出ている場所を見たいと思ったから」。

調査の結果、前章のアニメ聖地巡礼の特徴で見た特徴が、いくつも見受けられた。

問一では、サンプルは少ないが二〇代と五〇代と幅広い

年代に支持されていることが分かった。また、作品に女性キャラクターが多いためか、ファンには男性が多かった。

問二では、聖地から近い地域から、遠くの地域まで多様な場所から人が来ていることが分かった。問四では、語り方に差はあるが全員、目的は聖地巡礼だった。問五では、全員が、関連グッズを購入しており、作品を好きになってから聖地巡礼をしているようだ。問六の動機について、「アニメの舞台を見たい」という理由や、「キャラクターと同じ空気を吸いたかった」といった理由とは異なり、「アニメの聖地だから」という理由は、理由としては不十分なように感じられる。この回答は、「単純接触効果」によるものではないだろうか。問七の回答には、「暑くて軽く死ねますね」という回答があった。この回答は、この問いに対してあまり関係ないように思われるが、登場キャラクターである「ゆづき」の口癖、「軽く死ねますね」を模していた。聖地だからこそ、作中で出てきた、セリフを用いることができていると考えられる。作品愛を感じられる回答だった。問八の回答では、いくつものアニメ聖地があげられており、聖地巡礼をする人は、一つの作品だけでなく、さまざまな作品

の聖地巡礼をしているということが分かった。九、一〇の問いについては、回答した人のほとんどは、実写作品のロケ地を巡った経験がないとのことだった。前述したように、テレビで見ている場所と実際の場所とのギャップが少ないためか、アニメ聖地巡礼に比べて、実写作品のロケ地を巡る人は少ないという結果であった。

また、回答して頂いた場所として、NHKのドラマのロケ地が挙げられた。理由は、「作品に出ている場所を見たいと思った」と、実写作品でも、アニメ聖地巡礼と同じような動機でロケ地を巡っていたことが分かった。

第四節 巡礼ノートまとめ

今回「よりもい」聖地巡礼をする中で、巡礼ノートを確認できたのは、カフェ・ド・スタールと、つつじが岡公園の東屋、ラーメン厨房ほれほれの三か所であった。その他の場所にも巡礼ノートは設置されていたが、確認することはできなかった。確認できた三か所の巡礼ノートを参考にまとめる。

カフェにあった巡礼ノートは二冊、東屋にあった巡礼ノ-

トは、中身が雨により、文字が滲んでいたものも合わせ四冊あった。ぼれぼれでは、巡礼ノートと共に、海外からの留学生が置いていった、お手製の巡礼記なども一緒に置かれていた。

書き込まれていたコメントのうち、もっと古い日付は、アニメ放映中の三月三日であった。コメントと共に、登場キャラクターのイラストも数多く描かれていた。(図10)

コメントには、書く人によってさまざま書き方があった。以下は、巡礼ノートに書かれていたファンの方々のコメントの一部をまとめたものである。

- ① 「2018.3.3 茂林寺に続き東屋にもやってきました!」
- ② 「千葉から来ました! 印西市からは遠い!」
- ③ 「館林市民に間違われる埼玉県民が来ました(笑) ふらつと両毛東武フリーパスで聖地巡礼してくださいな」
- ④ 「埼玉から来ました!」から「南極」行きたい! 立川の「南極・北極科学館」もオススメ! 南極よりの問題」
- ⑤ 「埼玉から来ました。よりもい聖地巡礼2日目。いつか南極へ行きたい!」よりもい最高!」プリンシェイクを

持ってここで飲んだ。ウメェ〜」

⑥ 「館林市民ですが来ました。久々に心揺らされるアニメに出会いました。もつこのアニメの素晴らしさが広まれば良いと思います。FGO:「宇宙よりも遠いカルデア」よろです。」

⑦ 「前橋から走ってきました!また遊びにきます。きつどまん」

⑧ 「よりもい最高キマリ、しらせ、結月、日向みんな大好きです。南極でもがんばれ!また絶対来ます!のぶpsみなさん!安全に」

⑨ 「みんな館林に来てくれてありがとう!聖地巡礼楽しんでね!」

⑩ 「ごまあみろ!」と叫ぶ自分を想像しながら夢や目標に向かっていく力をこのアニメからもらっています!館林の新宿一丁目より!」

⑪ 「埼玉から来ました。二回目です。茂林寺を見てからこちらへ!しらせちゃんの家を見てきました。よりもい、最高!」

⑫ 「海外中国広州から来ました!すごく綺麗な場所です。

次もチャンスあたら来きたいです。」

⑬ 「前橋から来ました!毎回元気もらってます!よりもい最高すぎて軽く死ぬますね!」

⑭ 「キマリたちと同じ景色を見られてよかった。この後は城沼の桜とこいのぼり見に行きます!よりもいlove!館林love!」

⑮ 「327いよいよ今日は最終回なので、ここにきてみました。みんなで笑って泣きましょう!」

⑯ 「43最終回から一週間また来てみた。」

⑰ 「65久しぶりに、BS11今日は第一〇話!」

⑱ 「よりもい聖地巡礼のーと記入第一号偶然館林近くの出張のため、軽く聖地巡礼をと、近くを色々見てきましたが、どこも再現度が高いです。正直群馬のの出張いやだなーと思っていたのですが、よりもいの舞台に訪れることができると思うとワクワクするこの頃です!今日はむかいにある花山うどんさんと南極カレーのうどんを。おいしかったのでオススメです!ここではコーヒーを飲んで休憩中です!」ここから、ここから聖地をまわる方はどうぞ、!安全に!@てっしーさん ノートの設置

ありがとうございます。盛り上げていこうと色々と行動
していて感謝です。これからもよろしく願います。

(フオローありがとうございます。) byりょーちん

⑱ 「館林に物件探しのついでに聖地巡礼しました。ホッ
トドックを食べました。待ち合わせにぴったり。めぐみ
ちゃんの席を後ろから見えます。」

⑳ 「初館林です。アイスティー美味しかったです。」

短いコメントから、⑱のように長いコメントまでさまざま
なケースがあった。なかでも、最も多かったのは「○○
からきました「よりもい」最高です」、というコメントだっ
た。他には、「暑い」やカフェで頂いた料理の感想について
などが多く見受けられた。また、アンケートの回答にもあ
った、「軽く死ねますね」も数多く書かれていた。

さらに、⑮、⑯、⑰は、同一人物によるコメントであっ
た。このように、巡礼者の特徴として挙げられていた、何
度も聖地巡礼をする人が多数いることが確認できた。多く
のコメントの最後には、ほとんどの人が本名ではなく、ペ
ンネームのような名前を書いていた。

また、「宇宙よりも遠い場所」の監督である、いしづかあ
つこさんのコメントもあった。監督さんのコメントの次の
ページには、「↑左のページにカントクさんのサインがあり
ますので、ご配慮よろしく願います。」といった、巡
礼ノートを書く時の注意書きもあった。このように、作品
を作る側の人も、巡礼ノートにコメントしており、作る側
もファンも同じ形でコメントできるのも、巡礼ノートとい
う聖地を訪れた者にしか、コメントを書くことのできない
ものの存在があるからだろう。

そして、巡礼ノートにコメントを書くことで、自らが聖
地を訪れた証として、巡礼者は、巡礼ノートにコメントを
残すのだろう。

第五節 聖地巡礼の分析

今回、巡礼をして分かったことがいくつかあった。

まず、巡礼者は、いくつものアニメ作品の聖地を巡礼して
いるということ。一つの作品にだけ絞って、巡礼をする
ということはほとんどなく、気に入った作品、住んでいる場
所から近い場所が聖地になっている作品など、人によって

異なるが、2〜3作品の聖地巡礼を経験していた。また、同じ作品の聖地でも何度もそこを訪れ、訪れるたびに、巡礼ノートへコメントをしている。そして、多くの場合、複数人で聖地巡礼をしているということが分かった。

宗教的な聖地では、神や仏・奇跡等を観測した人物と、聖地巡礼として、その場所を訪れる人物とが同一人物であることは、無いと聞いていいだろう。しかし、アニメの場合、キャラクターと、キャラクターが登場した場所を、同時に目視することができる。このキャラクターは、このアングルから見た時のこの場所で、こんなポーズで登場したと、はっきり言い切ることができる。アニメ聖地では、聖地となった場所は、実際にある景色、風景がモデルになっているため、作中の場面でもリアルであり、実在しないキャラクターもリアルに感じることが出来る。そのリアルさがあるからこそ、キャラクターと同じ空気を吸いたいと思うこともあり、また、本編で登場したようなアングルから聖地の写真を撮り、キャラクターと同じようなポーズ・同じような格好で写真を残したい、と思うのだということが分かった。

また、アニメ聖地は、宗教的な聖地や有名観光地といった、非日常を感じられる場所とは異なり、日常的に目にする、住宅地や公園・駅などといった、公共の場所も多く確認できた。日常的に目にする風景だからこそ、巡礼者自身がその作品の聖地を探すという楽しさもあるということだった。

アニメ聖地といっても、登場キャラクターのパネルが設置されており、案内看板が設置されている訳ではなく、アニメを見ていない人からすると、何の変哲もない場所である。しかし、アニメを見ていた人からすると、作品を構成する要素のひとつであり、物語を彩る特別な場所、という認識になる。アニメ作品によって聖地へと昇華されたのが、「アニメ聖地」という特別な場所で、巡礼者やその地域に住む人々によって、大切にされているということが確認できた。

結論 「聖地巡礼」とは何なのか

第一節 現代の人々はなぜ聖地巡礼するのか

現代の人々は、そもそもどうして、聖地を訪れようと思うのか。聖地が、「観光地だから行く」というのも、ひとつの動機にはなるだろう。だが、私たちは、無意識の内に聖地巡礼が、必要なことだと感じているため、人々は聖地巡礼をするのではないか。内田樹、釈徹宗の『聖地巡礼：Beginning』には次のことがいわれている。

現代の訪問者は、テレビや雑誌を通して雑多な宗教的情報を獲得し、その中から自分の好きなものを選んで組み合わせる。昔から「ええじゃないか」みたいな、聖地を目指す宗教ツーリズムが沸き起こりました。現代でも何かが起きるのではないか、そんな予感の中、東日本大震災という事態に直面した。もしかしたら、いまの日本人に必要なのは、傷ついた人々や悲しんでいる人々を支える聖地の持つ力じゃないのか。そんな視座もあって、

さらに宗教的な場への思いを強くしているんです。(21)

人の力では抗うことのできない自然災害が起こり、その中では、心を痛める人も数多くいた。そのような、傷ついた人々・悲しんでいる人々に、聖地が支える力を与えてくれる。人々は、そのような力を与えてくれる場所を求めているのだということだ。

また、同じく内田樹、釈徹宗の『聖地巡礼：Beginning』では、次のようなこともいわれている。

聖地のひとつの特性として“動かせない”ことがあげられます。いま私たちの社会では、お店に行かなくてもほしいものが手に入ります。通信手段を使えばいいわけです。でも、聖地は家においてもやって来てくれません。また“コピーしてもダメ”というのも特性でしょう。(22)

通信技術が進んだ現代において、ネットを利用すれば、ネット通販など動くことなく、多くのことが出来るようになった。しかし、その中で、“動かせない”という特性を持

った聖地を、いかにして感じるか。それは、実際に現地を訪れるしか方法がないのである。便利になる一方で、神や仏を実際に感じることは、ネットを通したとしても、決して感じるとうることのできないことである。そうであるならば、やはり、自らが足を運び、聖地巡礼をする必要があると感じるのだろう。

第二節「アニメ聖地巡礼」人々には何をもたらせるのか

先に述べたように、聖地には、人の心を癒す作用があり、実際にスピリチュアルな体験ができることがある、とのことだった。前節では、主に宗教的な聖地巡礼を見たのだが、やはり、このようなことは、アニメ聖地巡礼にも言えることであろう。岡本健の『n-th CREATION TOURISM』には、次のようなことがいわれている。

アニメファンの中には、アニメやそれを取り巻く文化に強い思い入れがある場合や、それが自身のアイデンティティ形成に強く関係している人にとっては、自分の精神的な中心に関わる、宗教的な巡礼にも劣らない「聖地巡

礼」となっている場合もある。たとえば、筆者がインタビューをした巡礼者の中には、「これまでひきこもりだったけど、聖地巡礼がしたくて、数年ぶりに家を出た」という人がいた。いくつかのアニメ聖地では、巡礼をきっかけに当該地域に百回以上通い続ける人もおり、中には、アニメ聖地周辺で仕事を不得、そこに転居する人も出てきている。(23)

人により異なるが、さまざまな体験をすることで、アイデンティティ形成がなされる。そのコンテンツの一つに、「アニメ聖地巡礼」があるということだ。アニメ聖地も、人の心に癒しを与えてくれるものであり、自ら体を動かさなくては、見ることのできない風景・景色を感じる行為である。更に、巡礼者は、普段接することのない人、アニメ聖地の地域に住む人々との交流もすることができ、非日常性を味わうことができる。

また、「ひきこもりだったが、アニメ聖地のおかげで、数年ぶりに外に出ることができた」という人や、アニメ聖地を何度も何度も訪れ、聖地のある地域で新たな生活を始め

たりする人がいる。アニメファンにとって、アニメ聖地はアイデンティティの形成に役立ち、さまざまなきっかけを与えてくれる現象であるといえるだろう。

つまり、アニメ聖地巡礼は、人々に自らの人生を変える、きっかけを与えてくれるものであるといえる。

第三節 「聖地巡礼」と「アニメ聖地巡礼」の違いの考察

宗教的な聖地は、神や仏などが現れた場所、奇跡が起きた場所であり、人ではなく、神仏によって聖地が生み出され、その現象を観測した人達により、物語が付随されて聖地が成立する。宗教の聖地は、多くの人々に認知されており、そのほとんどが観光地として、多くの観光客が訪れる場所になっている。聖地（観光地）に至るまでの道のりは、公共交通機関が整備され、現地には、大きな看板・観光案内等があり、誰でも簡単に聖地巡礼（観光）をすることができる。比較的簡単に目指すことができるのが、宗教的な聖地巡礼なのである。

一方、アニメ聖地では、アニメ作品を作る人達によって、作品の舞台となる場所が選定される。その後、選定された

場所の風景を含むアニメ作品が作られる。出来上がったアニメ作品を見た人々によって、作品の舞台になった地域・場所が特定され、聖地と認識されるようになり、聖地巡礼を行われるようになる。ここ数年で、アニメ聖地巡礼への関心が高まり、アニメツーリズム協会が設置され、テレビ等でも特集されるようになった。このため、以前よりも情報を集めることは難しくないが、宗教的な聖地と比較すると、誰でも簡単に行ける、という訳にはいかないだろう。

宗教的な聖地は、神仏などスピリチュアルな力との関係によって聖地が形成されている。そして、非常に長い時間をかけ、多くの人々に知られることによって、誰もが知っている大きな物語を形成し、聖地として認知される。アニメ聖地では、アニメーションという、元々、アニメが語源である表現技術を使い、人の手により物語が紡ぎだされている。そして、その物語の舞台やモデルとなった場所が、その物語に強い思い入れのある人々を中心に、より短い時間で聖地として認識されるのである。

宗教的な聖地とアニメ聖地の違いを一言でいえば、物語の発信者が神仏・聖人なのか、アニメーションを作る側の

人達なのかである。また、物語を認知している人数と、その物語が知られるようになってからの時間の違いが大きいといえるだろう。その点を除けば、むしろ、宗教的な聖地巡礼と、アニメ聖地巡礼は、かなり類似した現象だと言えるのではなからうか。

第四節「アニメ聖地巡礼」はなぜ聖地巡礼と言われているか

宗教的な聖地巡礼とアニメ聖地巡礼が、よく似た現象だとするならば、アニメの舞台巡りやロケ地巡りといった、面倒な言い方をする必要はないだろう。岡本健の『with CREATION TOURISM』には、次のように言われている。

ある宗教の聖地がその宗教の信者にとっては極めて重要な場所であるのと同様に、アニメファンにとっては大切な場所であり、「聖地」と呼称すると考えられる。大げさな名付をした遊びの側面もあるかもしれないが、それだけではない。(24)

あるアニメの聖地が、そのアニメのファンにとっては、極めて重要な場所になるため「聖地」と呼ばれるのである。

また、本論文の巡礼記の、レザークラフトページの店主による回答には、「著作権元にお布施したい」という声があったと記されている。この「お布施」という言葉は、本来仏事の際、僧侶に読経などの謝礼を渡す金品を意味する仏教用語である。

さらに、ネットで「布教」と検索すると、宗教の布教に次いで、オタクによる布教といった検索結果が得られる。

このように、アニメをはじめとするサブカルチャー・コンテンツでは、宗教的な用語が多く見られるのである。これらのアニメを含むサブカルチャーと宗教の関連性について、さらに詳しく考察する必要があるだろう。

こうした状況を考えるとき、「アニメ作品の舞台・モデルとなった場所を巡る」という行為について、「聖地巡礼」という言葉を使って説明することは、むしろごく自然な行為だと言えるのかも知れない。

注

- (1) 岡本亮輔『聖地巡礼…世界遺産からアニメの舞台まで』中央公論新社、二〇一五年、六頁。
- (2) 同右書、六頁。
- (3) 同右書、七六頁。
- (4) 酒井亨『アニメが地方を救う!?…聖地巡礼の経済効果を考える』ワニブックス、二〇一六年、三六頁。
- (5) 岡本健『コンテンツツーリズム研究―情報社会の観光行動と地域振興―』福村出版、二〇一五年、二八頁。
- (6) 同右書、二九頁。
- (7) 同右書、五五頁。
- (8) 前掲、酒井亨『アニメが地方を救う』一七頁。
- (9) 同右書、一八頁。
- (10) 同右書、二二頁。
- (11) 同右書、四〇頁。
- (12) 岡本健『n-th CREATION TOURISM n次創作観光アニメ聖地巡礼』コンテンツツーリズム観光社会学の

可能性』NPO法人北海道冒険芸術出版、二〇一三年、六一頁。

- (13) 酒井亨『アニメが地方を救う!?…聖地巡礼の経済効果を考える』ワニブックス、二〇一六年、一〇四頁。
- (14) 同右書、一〇六頁。
- (15) 同右書、一三三頁。
- (16) 同右書、一三四頁。
- (17) 同右書、一三六頁。ここでの「FC」は、「フィルムコミッション」のこと。映画等の撮影場所の誘致や撮影支援をする機関の総称。
- (18) レザークラフトコテージ店主からの回答。
- (19) 同右。
- (20) 「ぼれぼれ」にてお話しを伺った親御さんのお話。
- (21) 内田樹、釈徹宗『聖地巡礼：Beginning』東京書籍、二〇一三年、一四頁。
- (22) 同上書、一五頁。
- (23) 岡本健『n-th CREATION TOURISM n次創作観光アニメ聖地巡礼』コンテンツツーリズム観光社会学の可能性』NPO法人北海道冒険芸術出版、二〇一三年、

五一頁。

(24) 同上書、五一頁。

参考文献

・今井信治『オタク文化と宗教の臨界：情報・消費・場所をめぐる宗教社会学的研究』晃洋書房、二〇一八年。

・岡本亮輔『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』中央公論新社、二〇一五年。

・酒井亨『アニメが地方を救う！？—聖地巡礼の経済効果を考える—』ワニブックス、二〇一六年。

・岡本健『コンテンツツーリズム研究—情報社会の観光行動と地域振興—』福村出版、二〇一五年。

・岡本健『n-th CREATION TOURISM n次創作観光

アニメ聖地巡礼』コンテンツツーリズム観光社会学の可能性』NPO法人北海道冒険芸術出版、二〇一三年。

・内田樹、釈徹宗『聖地巡礼：Beginning』東京書籍、二〇一三年。

地域の拠点としての天理教会の新たな

取り組み ― 子ども食堂を通して ―

桑原 葵

コメント

宗教学科教授 岡田 正彦

本論文で筆者は、自分自身の経験を生かしながら、各地の天理教の教会が取り組み始めている「子ども食堂」の現状について、最新の情報を提供してくれている。これまで、全体的な活動を俯瞰した研究はなされていないので、現状をまとめる情報だけでも大きな意義があるというべきだろう。

また、現在注目されている「子ども食堂」の活動を日本の社会福祉の歴史の変遷に位置づけ、現代社会における「子ども食堂」の意義や役割についても上手く論じている。ただ、いくつか脱線気味とも感じられる unnecessary 記述があるので、もう少し内容を整理する必要があるだろう。

実際に自分が関わっている「子ども食堂」の様子や調査に行った教会の活動に関する記述は、とても説得力のある内容になっている。自分の目で見て感じたことをまとめた情報は、とても貴重なものと言えるだろう。しかし、現状をより深く分析するためには、もう少し現代社会論や宗教学関係の文献も広く学んで欲しい。大谷・藤本氏の共著はとても良い本だが、参考にしたのが一冊だけでは、やはり視野が狭くなるのではないだろうか。

新しい事象を扱っているのですが、どうしても現状を伝えることに終始しがちになるが、論文を書くためには客観的な分析を行なう必要がある。そのためには、「ホーム」と「アウェイ」といった借り物の概念ばかりでなく、自らが調査のなかで出会った言葉や経験を分析概念に高めていく必要があるだろう。

興味深い情報が沢山詰め込まれており、論述の妥当性を評価する以前に、多くの新しい知識を得ることができた。これまで指導した卒業論文のなかで高い評価を受けた論文は、振り返ってみると天理教手話や里親活動、海外の青年会の活動など、どれも本人が深くかかわっている活動について、当事者にしか知りえない貴重な情報を提供してくれたものが多かった。多様な天理教の社会活動や信仰活動に主体的に関わる学生が、いつも宗教学科に居てくれることを誇りに感じ、これからもさまざまな分野で、活躍する学生たちを見守っていききたい。

はじめに

天理教教祖百三十年祭を前に発布された諭達第三号に、「陽気ぐらしの手本たる姿を地域に映そう」と訓辞されたように、全国各地の天理教の教会は、地域における陽気ぐらしの発信元となることが強く望まれる。また、時代に即したにをいがけのあり方について、それぞれの地域の系統を超えた連携や、婦人会、青年会など各会の連携を通して、一手一つに取り組んでいくことがますます期待されている。近年急速に進む少子高齢化、核家族化や高齢者の孤立などから生じる様々な社会問題への対応が急務であるが、社会保障費は年々増加し、国の財政を逼迫している。国の福祉政策は国家レベルから地域社会レベルへ、行政主導から民間の自発的な動きを促進するものへと移行し、住民が主体となって行政と共に良い福祉社会を実現していく方向に進んでいるが、それにはボランティアなど、自発的な動きが必要不可欠である。

本論文は、ここ数年で急速に拡大した子ども食堂という民間ボランティア発の全国的な現象に注目し、現在の児童福祉が届かない部分や地域の「居場所」づくりの需要について取り上げる。そして天理教会が地域の「居場所」、おたすけの拠点となるべく子ども食堂に取り組んでいる現状を報告する。

また、「子ども食堂」に、一宗教としての天理教が関わる

ことで生起する宗教の公共性をめぐる問題について述べていく。市役所、県庁、社会福祉協議会といった公共機関との信頼し合う関係を保ちながら、行政の届かない側面で天理教のおたすけが活きてくる現場であることを考察していきたい。

最後に、東日本大震災以降の宗教研連携の動きを紹介し、宗教的救済の社会的需要を踏まえながら、天理教の教会が子ども食堂を通して独自性を発揮できる可能性を論じる。

第一章 天理教の社会福祉

第一節 天理教社会福祉の歴史

① 戦前の福祉事業

天理教における最初の福祉施設は、明治四三年（一九一〇）設立の天理教養徳院（後に天理養徳院と改称）である。

これは天理教一派独立の条件として、感化免囚事業を担うことを要求する明治政府に、児童養護施設という形で応えたものであった。¹

天理教教会本部にいわゆる福祉担当窓口ができたのは昭和六年（一九三二）で、一月一〇日に設置された庶務部社会課は、当時増加しつつあった農繁期季節託児事業の育成を担った。その後、昭和十一年（一九三六）の教祖五〇年祭と翌年の立教百年祭の記念行事として、「社会事業六項目」

が発表される。この「六項目」とは、①乳幼児保護、②虚弱児保護、③全国児童愛護週間実施に関し各府県との協力、④少年保護事業助成、⑤教内社会事業助成、⑥地元社会事業助成、である。③の全国児童愛護週間には、三府四十三県北海道・台湾・朝鮮当局にそれぞれ 千円ずつ、計五万円を寄付し、奈良県には社会事業助成金として一万円を寄付した。また①の乳幼児保護事業には、東京、大阪で牛乳無料配布がなされた。二

しかし、この時期に本部が最も力を入れた社会事業は、季節託児所の設置である。これは、戦時下の地域社会に対する積極的な貢献の意味合いがあり、農村部を中心に漸次増加し、昭和十八年（一九四三）一月二六日には、その八七ヶ所に対して本部より補助金が下付された。

また、この事業を推進するために保育士の育成が必要になるが、昭和十八年（一九四三）六月二四日には奈良県の後援を受けて「第一回季節保育所保母養成講習会」を実施、修了生には「保母適任証」が奈良県当局から発効されるなど、行政と連携しながら地域社会の児童福祉の需要に応えてきた。三

地方においては、独自の社会事業も行われた。東本大教会や高岡大教会では、児童の教育、保育施設が次々と設立されるが、これらは当時の修学までの保育・教育機関がその地域に全くないという状況を受けて、教会が補完的に事業に乗り出したものである。たとえば、昭和十七年（一九

四二）一〇月に完成した高岡隣保館では、保育所、健康相談事業、軍人遺族授産所も併設した三〇〇名以上の大事業所となり、地域住民の大きな就労の場とコミュニケーションの場を提供した。四

② 戦後の福祉事業

戦後の福祉事業は、戦争孤児対策の児童福祉事業が多く、孤児収容の養護施設や母子寮、就業する親のための保育所が多く創設された。そして昭和三年（一九四八）、本部主導による①布教意欲の高揚、②文教体制の拡充確立、③文化ないし社会施設の地方普及、という三大方針が打ち出され、多くの施設が設立された。このうち三番目の方針については、宗教教団である以上、福祉活動をすることは当然だというGHQの要請に應える形であったが、宗教教団が本部主導でその施策の中に福祉事業を取り入れたのは、この当時としては画期的であった。教区レベルにおける事業計画が進み、大阪や愛知に助産所が作られ、北海道教区では北海道最初の知的障害児施設「富ヶ岡学園」が、道の民生部や医学界・北海道大学等の協力を得て創設された。

大教会の事業も増加している。戦前の東本・高岡に加えて、東愛・山名・嶽東各大教会の保育事業や古市・本島・伊野・川之江各大教会も、それぞれに事業を実施しているのもこの時期の特徴である。五

福祉関連の法整備が進んだことにより、昭和三年（一

九五六）の教祖七〇年祭以降に設立された施設はほとんど廃止されていない。また、種類も多様化し、知的障害者や高齢者関係の施設が増えている。高度経済成長を反映して保育所も多く開設され、そのほとんどが現在も継続されている。

なお、三大方針発表後、以下のような当事者組織、職能組織が誕生した。^六

- ・昭和二六年（一九五二） 天理教社会福祉事業協会（後に天理教社会福祉施設連盟）
- ・昭和二八年（一九五三） 天理教教師連盟
- ・昭和三一年（一九五六） 天理教保護司連盟
- ・昭和三二年（一九五七） 天理教視力障害布教連盟
- ・昭和三四年（一九五九） 天理教民生・児童委員連盟
- ・昭和三五年（一九六〇） 点字研究室
- ・昭和三六年（一九六一） 天理教聴力障害者布教連盟
- ・昭和四〇年（一九六五） 天理教療養所布教教義会
- ・昭和四〇年（一九六五） 天理教献血推進委員会
- ・昭和四四年（一九六九） 天理教社会福祉研究会
- ・昭和四五年（一九七〇） 天理教肢体障害者布教連盟
- ・昭和五七年（一九八二） 天理教酒害相談室
- ・昭和五七年（一九八二） 天理教里親連盟

このうち、一九八二年の天理教里親連盟は「天理教里親

会」として発足したが、昭和三〇年代より組織化の動きはあったものの、なかなか実現しなかった。しかし、民間としては「家庭養護促進協会」に次ぐもので、宗教団体としては初めてである。現在も各教区に里親育成員をおき、地域の児童相談所との連絡を図っている。

近年は、在宅福祉事業を実施する施設が多く、既存の施設の事業に加え、NPO法人を取得して活動する所も増加している。地域の特性を生かした福祉活動は、今後ますます増加するものと予想される。

③ 戦前、戦後の天理教の社会福祉観

天理養徳院の開設は、明治政府の感化免囚事業の要求に児童施設という形で応えるものであった。また戦後の三大方針の三番目「文化ないし社会施設の地方普及」は、宗教教団である以上、福祉活動をすることは当然だというGHQの要請に応えるものであった。天理教の社会事業は時々国家政策、また地域の福祉ニーズに呼応しつつ、教理を根底にした事業としての独自性を発揮しようと、様々な試みが繰り返されてきた。

初代真柱は、「人の子も我子もおなしこゝろもて おふしたてゝよ このみちの人」と詠まれ、天理養徳院の使命と、その子どもたちの育成に携わる者の心構えを示した。

また、二代真柱は福祉事業に関する啓発・研修のための各種大会の開催や関係者組織の整備を進めたが、こうした

大会に出席して、祝辞や訓話を述べている。この中で、昭和二十八年（一九五三）一月二十八日の「お仕込み」において、「こゝに又二つのもの考え方ができてくる、制度としてその制度に従事されておるところの事務員であるというよきな考え方と、已むに已まれん自分の心が、その制度を通じて現わしていこうとする熱意」という二つの姿勢を挙げ、福祉事業に単に従事するだけでなく、おたすけの熱意を現わしていく必要性を説いている。

さらに、「たとえば薄弱児をたくさん集めておくよりも、ほんとうにこれを助ける気持ちがある、みんなにあったならば、技術の善し悪しとか資格の有無とかいう問題よりも、わが子として自分の膝下において日夜面倒をみるということが一番いゝだろうと思うんです。」と述べ、続いて「言い換えると十人も二十人も団体で、一つのところに収容するのじやなしに各家庭／＼に一人づつ預って、そうして、自分の子どもと同じように育て得たとするならば、これは一番理想だと思っんです」と述べている。おたすけの観点から、当時の施設や制度の問題点を挙げ、何が子どもにとつて一番良い環境であるかについて言及している。^七

国は、平成二十八年（二〇一六）五月に児童福祉法を改正し、「子どもは権利の主体」であることを確認する一方で、家庭養育優先の理念を規定した。さらに平成二十九年（二〇一七）八月、厚生労働省は「新しい社会的養育ビジョン」を発表し、里親への大きな数値目標を掲げており、児童養

護施設でなく、里親の下での家庭養育に本腰を入れてきた。「人の子を預って育ててやる程の大きなたすけはない」という教祖の言葉、初代真柱の「人の子も我子もおなじこゝろもて」という歌、二代真柱の「わが子として自分の膝下において日夜面倒をみるということが、一番いゝだろう」という言葉に示されるように、教理を根底にした福祉事業としての独自性は、里親活動において最も発揮されているように思われる。福祉における実践天理教学は何かという課題は当時から議論されていたが、次章で述べる施設から在宅へという福祉の構造改革が進む中、改めてその議論を深めていく時ではないだろうか。

第二章 今日社会福祉と「子ども食堂」

第一節 福祉国家から福祉社会へ

一九九〇年の社会福祉関係法の改正は、戦後最初に行われた社会福祉の大きな制度改革であった。従来の中央集権型の社会福祉のあり方から、地方自治体が地域の実情に応じて主体的に考え、計画的に推進する分権型の社会福祉に転換するとともに、社会福祉施設中心であった制度体系を、在宅福祉サービスを制度化・整備しながら、地域福祉を志向した新たな在り方へ転換した。

平成十二年（二〇〇〇）に制定された社会福祉法は、地域福祉を新たに社会福祉の基本的方向として明文化し、こ

れを推進する主体に地域住民を位置づけた。これによって、社会福祉における「主役」の座が、行政から地域住民・利用者に移行したのである。

これ以降、日本における社会福祉の実態は大きな変化を遂げた。まず、介護保険制度の導入により、利用者が選択して契約し利用するという制度が導入されたこと、二つ目として、福祉オンブズマンなど、利用者の立場に立つてその権利を保護し、サービスを点検・評価する取り組みが生まれたこと、さらにはボランティア活動など市民の自発的な活動が広がっていったことなどが挙げられる。

こうした一連の社会福祉制度改革によって志向されている社会像は、一言でいえば「福祉国家から福祉社会へ」というものである。戦後の日本は、日本国憲法第二五条「最低生活の保障」をベースに、社会保障体制を国家責任で整備するという「福祉国家」建設をめざしてきた。しかし、社会福祉法が制定され、社会福祉サービスが「利用者主体」をめざし、地域福祉においても住民の主體的な役割が求められる今日、従来のように、国あるいは地方公共団体という行政が「最低生活の保障」のために給付するという考え方から、一人ひとりの生きがいや自己実現に向けた生活の質の向上を、他者との関係を保ちながら、住民自らが主体的に高めていくという考え方に転換していく必要性が唱えられている。^八

このように、二十世紀の行政主導による「福祉国家」づ

くりから、二十一世紀の「福祉社会」づくりへの転換が求められる中、折しも一九九五年の阪神淡路大震災以降、ボランティアの存在が注目されるようになった。また、2011年の東日本大震災では、平常時の地域づくりが迅速な助け合いに繋がることを、国民の多くが認識するようになった。近年の相次ぐ自然災害に際し、ボランティアと地域づくりの大切さが、メディア報道だけでなく、個人のSNS発信を通して広く認識されている。

第二節 子ども食堂の出現

① 子ども食堂の発生と拡大

子ども食堂の起り方は、平成二十四年（二〇一二年）、東京都大田区にある「気まぐれ八百屋だんだん」の店主であり、地域の居場所作りにも携わっていた近藤博子が、仕事を通じて食事の偏りがちな子どもたちの存在を知り、「子どもが一人でも入れると同時に、大人も入っていい場所」との意味で、「子ども食堂」を開店したことに始まる。当時はまだ地道な活動であったが、口コミで徐々に活動が周囲に伝わり始めた。

平成二十六年（二〇一四年）四月、東京都豊島区で子ども食堂の運営などに携わる民間団体・豊島子ども WAKU WAKU ネットワークの活動が、NHKの情報番組『あさイチ』で紹介されたことを機に、テレビ、新聞、雑誌など多くのマスメディアから注目を集め、子ども食堂が日本全国的に広が

るきつかけになった。

平成二十七年(二〇一五)には、「子ども食堂ネットワーク」が発足し、北海道から九州に至るまで多くの食堂がこれに参加した。また同年には、WAKUWAKU主催により「子ども食堂サミット」が開催され、このサミットで子ども食堂の存在を知った多くの人々から「子ども食堂を始めたい」「手伝いたい」との意見が多く寄せられ、子ども食堂が一層全国に広まるきつかけになった。

平成二十八年(二〇一六)4月からは、日本全国で子ども食堂の啓発活動を行い、子ども食堂が急増する。当時子ども食堂は三〇〇ほどであったが、平成三十年(二〇一八)四月には二二八か所と急増した。^九ただし、全国的にこれらの食堂を統括する組織はなく、実質的に子ども食堂と同じ機能を提供しているにもかかわらず、「子ども食堂」を名乗っていないケースもあるため、実際の総数は定かではない。

② 子ども食堂の形態

子ども食堂への参加費(料金)は、子どもについては無料としているところが半数以上であり、有料の場合は五〇円から五〇〇円、次いで一〇〇円から三〇〇円のところが多い。保護者など大人については、子どもより割高に設定されている場合が多い。^{一〇}

子ども食堂で提供される食事の内容は、農業が盛んな地

域では野菜中心の料理、バランスのとれた料理、プロの料理人にこだわった料理、バイキング料理やビュッフェなど二、さまざまである。また、健康と食の安全性などの考慮から、有機農業による野菜など、化学調味料不使用、動物性食材不使用、食物アレルギー対策を謳った食堂もある。^{一一}また、食事以外にも、宿題の時間、自炊の力をつけるために子どもも調理に参加するなどの活動、地域住民との交流の場を組合せていることもある。

いわゆる「孤食」など家庭の事情を抱えている子どもも来店する中、そうした子どもたちに助力したいという気持ちを抱きつつも、敢えて事情を詮索せず、当事者たちから助けを求められるまで待つという姿勢を守る店が多い。また、それとは対照的に、子どもたちの問題を丸ごと抱えようと、キリスト教の修道施設の一部を場所に選び、中高生向けの施設の相談員や民生委員の経験者が代表を務め、調理や学習支援のスタッフに加え、自閉症スペクトラム支援士などの専門資格の所持者がそろっている食堂もある。^{一二}本来は、貧困家庭や孤食の子どもに対し、食事や安心して過ごすことのできる場所を提供する場所として始められたが、後には地域のすべての子ども、親、地域の大人など、対象を限定しない食堂も増えている。子どもとの交流や家族的な何かを求める来店者が多く、相席も多い。^{一三}大人も参加可能な店では、母子での参加も多い。^{一四}孤立しがちな母親が同世代と交流可能な唯一の場所として来店した

り、^{一六} 高齢者の多い地域では「一人で家にこもるよりは」といつて来店する人も多い。^{一七}

子ども食堂の運営は、^{一八} 法人や民間団体、住民による有志、個人などによる。^{一八} 専門家が運営に携わるところもあるが、ボランティアによるものが大部分であり、食事を提供するという敷居の低さがボランティアによる運営のしやすさにも繋がっている。^{一九}

多くの食堂では、子育てが一段落した五〇歳代から六〇歳代の主婦たちが活動の中心を担っている。^{二〇} ボランティアのメンバーは、地元の主婦たちのほか、調理学校の学生、家政学を学ぶ学生などが調理を手伝い、また大学生らが子どもたちの遊び相手をしているところもあれば、^{二一} 子どものボランティアがいるところもある。^{二二}

子ども食堂の場所としては、公民館や児童館など公的施設のほか、事務所、空き店舗、民家、飲食店、医療機関や介護施設の交流スペース、寺、神社、教会などが用いられている。「プロが作る」馳走を食べさせたい」として、喫茶店が定休日に開催しているところもある。^{二三} そのほかには、企業の社員食堂、^{二四} 小学校のランチルーム、^{二五} 大学の学生食堂、空き家、廃校、トレーラーハウス、貸倉庫などでも開催されている。家庭の事情で一人暮らしとなった一軒家を寝室以外丸ごと提供し、食事の提供以外にも、様々な遊びの場としている家もある。^{二六}

③ 子ども食堂の意義

北海道札幌市の子ども食堂、「kokoro」の運営に携わる政治家者の吉田徹によれば、子ども食堂の対象になる子どもは貧困家庭のみならず、富裕であっても一緒に食べる家族がない「孤食」、いつも同じ物を食べる「固食」、一種類しか食べ物が無い「個食」などニースは多様であり、こうした様々な「こしよく」の解消が、子どもの健康や教育環境の改善、子育ての問題にも繋がると言う。^{二七} また、子ども食堂には補助金や様々な制限など、行政が介入していないからこそ柔軟に運営できている面があるとしている。^{二八}

子どもの貧困対策や食品ロス問題などに取り組む政治家の竹谷とし子は、子ども食堂は栄養管理と同時に、多くの人々が携わることで子どもの孤立を防ぎ、「食」を通じて子どもたちを支援する大きな機能があるとしている。^{二九}

また、子どもと地域の大人たちが共に食事をすることで、子どもと大人たちとの交流や情報交換が増えて、地域のネットワーク形成に繋がる点や、子どもたちの来店を通じて、子どもの貧困の実態を、地域住民たちが認識するなどの点で、副次的な効果も生まれているとの声もある。商品にならない食材を子ども食堂で譲り受けることにより、食品ロスの解決につながっているとの評価もある。^{三〇}

子ども食堂が必要となる背景には、親の貧困の進度が深まり、介護問題や労働問題などが重なった末、育児放棄な

どで満足に食事のできない子どもができたという事情があることから、そうした、社会の問題を変えてゆかないと根本的な解決にはならないが、^三 貧困問題を多くの人々の気づいてもらうきっかけになり、人々が問題を知ることが、いざれ社会を変えてゆく動きへとつながって行くとする意見もある。^{三二}

WAKIWAKU ネットワーク理事長の栗林知絵子は、著書『子ども食堂をつくろう！』において、次のように述べている。

国や市区町村の制度を私たちは変えることはできないけれど、子ども食堂をつくり、まちの人と人がつながり直すことは、地域住民だからできること！行政にはできません。行政のできないことを批判する前に、私たちができることをやってみませんか。

そう、この本が『誰かがやってくれるのを待つ社会』から『自分たちでできることを始める社会』になるためのヒントになってほしいと思います。^{三三}

このように、子ども食堂は住民による自発的な地域づくりの例として、社会福祉改革の流れにも沿った動きであると見えよう。

第三節 天理教の教会における子ども食堂

① 天理教の教会における子ども食堂誕生の経緯

天理教の教会における子ども食堂としては、春港分教会（名古屋市）、天平分教会（岡山市）が二〇一六年四月に始めたのが最初とされる。その後徐々に増え、二〇一八年一月時点で四〇ヶ所以上あることが確認できるが、厳密な実数は不明である。

また、二〇一八年に入ってから、教内の多くの定期刊行物で子ども食堂の特集記事などが見られるようになった。

『あらしとよりよう』^{三四} 『陽気』^{三五} 『福祉のひろば』^{三六} 『天理時報』^{三七} 『さんさい』において、^{三八} 子ども

食堂が取り上げられている。

二〇一八年五月二六日には、子ども食堂を運営する有志らが「NGO」上で「天理教子ども食堂ネットワーク」を立ち上げる。続いて婦人有志らが「天理教子ども食堂女子会」を立ち上げ、二〇一九年二月二三日現在、それぞれ八六名、四七名が加入している。

こうした動きを受け、二〇一九年四月二五日には天理教民生・児童委員連盟が主体となって、正式に「天理教子ども食堂ネットワーク」が立ち上がる予定である。

教会が子ども食堂を始めた動機はそれぞれ異なるが、主に、①子どもの貧困問題を知って教会としての使命感から始めた所（春港分教会、天平分教会）、②教会お泊まり会をベースに宗教色を無くして広く門戸を開いた所（片桐分教会、玉川分教会）、③地域住民から場所の提供の申し出を受けて場所の持ち回りの一つとして始めた所（宗谷分教会、

山國大教会」といった分類が可能である。

しかしそこには、程度の差こそあれ、教会が地域に根付くためにどうすれば良いのかという内的要因と、子どもの貧困や孤立など社会問題の対応にいかに応えていくかという外的要因が含まれている。

② 子ども食堂における公共性と宗教色

子ども食堂は民間発の動きであるため、食事の安全性を保証し社会的に、信頼を得るためにも保健所に出向き、食事を提供することに対し一定の規則に従う必要がある。

また、教会における宗教色について、子ども食堂全国ネットワークの参加同意書には、「著しい営利や特定団体への勧誘を目的とした子ども食堂については、参加をお断りしております。」とある。^{三九} 特定団体への勧誘という文言には宗教の勧誘も含まれると考えるべきであり、同様に行政の補助を受ける場合にも、公共性の原則に配慮しなければならない。

もともと、全国ネットワークに参加しなければ、あるいは行政の補助を受けなければ勧誘しても良いのかという点については、現状ではそうした問題を統括して審査するような機関が存在しないために、そうした行為に対して何らかのペナルティーを課されることは考えにくい。だが、実際に勧誘色が前面化すれば、周囲からはそれが子ども食堂の良いイメージに便乗していると見られることになり、長

い目で見えた場合、そこから人々の足が遠のいてしまう可能性も十分に考えられるだろう。

また、教会側が勧誘を意図していなくても、勧誘されるのではと思う人はいるだろう。こうした点に配慮するため、子ども食堂のチラシに「勧誘はしません」と明記しているところもあれば、子ども食堂に関する任意団体を作り、主催はその任意団体で教会は協力するという形をとっている所もある。そうした表記の一例を挙げると、

主催…おのみなと子ども食堂の会 協力…天理教紀ノ川分教会

主催…楽しいは美味しい友の会 協力…海南市社会福祉協議会、天理教紀内分教会

という形である。宗教はあくまで協力する形で公共性を高めている。

また、教内の教区レベルのNPO法人に加入する形をとっている例としては、

主催…NPO法人 JIC兵庫 兵庫支部 協力…天理教本陽神分教会

という所もある。JIC兵庫 (Joyous Life Club) の略) は、二〇〇二年に紺谷清春氏が設立したNPO法人で、定款にお

ける目的の項目に、「この法人は、兵庫県民および広く社会の構成員に対して、福祉の増進、社会教育の推進、環境保全の支援などに関する事業を行い、社会に寄与するとともに、互いに扶け合って生きる輪が広がることを目的とする。」としており、雅楽など文化普及も含め、決して勧誘を前面に出さない広いにいがけ活動を行う団体と言えるだろう。現在は田川勇一氏が代表を務めている。

③ 地域の拠点としての現状

天理教の教会における子ども食堂の運営は、多くの場合信者主体で始めているが、徐々に一般ボランティアも加わり、共に活動する形に移行していくケースが増えているようである。昨今、子ども食堂の需要が高まっているが、ボランティアと場所の確保が最大の障壁である。天理教の教会は普段から出入りする信者のひのきしんと、炊事施設を備えた広い場所によって、子ども食堂を始めやすい状況にあると言える。地域住民の場所提供の申し出に応えた山國大教会のように、地域から何が望まれているか敏感になって、即座に応えていく姿勢が求められるだろう。

また信者、未信者の隔てなく気軽に入れる場所、個人的な悩みがある時や被災した時などに駆け込める場所というのは、普段から親しんでいるかどうかが大切である。地域住民の日頃のふれあいを提供する子ども食堂は、教会が地域の陽気ぐらしの発信元になっていく上で有効な手段であ

らう。

現在子ども食堂を行っている多くの天理教の教会の目的は、ひのきしんによる社会貢献という色合いが強い。しかし、それは現実には広い意味でのにいがけになっていることであり、カルト問題などから派生する昨今の宗教に対する偏見に鑑みれば、このような公共空間での広義のひのきしんの実践により、天理教の活動はますますその社会的な存在感を強めていくことになるのではないだろうか。

次章では、宗教と社会貢献の歴史的経緯を回顧し、そうした文脈における天理教の子ども食堂の独自性について検討したい。

第三章 地域社会と天理教の社会福祉

第一節 「宗教と社会貢献」の現代的意味

① 宗教と社会貢献の歴史

日本では、奈良時代に活躍した行基が、民衆のために橋を造ったり、道を開いたり、宿泊施設を造るなど、幅広い福祉的な活動を行った。また、聖徳太子が開いた四天王寺や、藤原氏の氏寺である興福寺には、病人や身寄りのない人々のために、現在の薬局、病院や社会福祉施設にあたる機関が設けられた。近代では、各宗教教団によって更生保護施設やハンセン病療養所が設置され、第一章で見たように、天理教もまた、特に児童福祉において積極的に貢献を

なしてきた。四〇

しかし、近代以降、こうした支え合いや助け合い、あるいは社会的弱者に対する救済は、まずは国がやるべきものだという考え方が強くなり、次第に国家単位の社会保障制度が整えられていった。戦後、福祉国家の確立が目指される中で、福祉活動は宗教団体ではなく、国家によって行われるべきという考え方がさらに強まり、宗教による社会支援への期待も後退していった。

一九五九年に甚大な被害をもたらした伊勢湾台風の際、各宗教団体は熱心に復興支援に励んだが、社会的にはあまり注目されなかった。また、一九九五年に起こった阪神・淡路大震災の際にも、少なからぬ宗教団体は懸命に支援活動を行ったにもかかわらず、その社会的な認知度は概ね低いものに留まっていた。さらに、阪神・淡路大震災直後にオウム真理教による地下鉄サリン事件が起こったこともあり、世間が「宗教は危ないもの」というイメージを強く持ったことも、そうした傾向に拍車をかけた一因と言えるだろう。四一

以上のように、歴史的にみれば宗教は概ね積極的に社会貢献してきたとも言えようが、福祉国家の確立を目指す近代以降は徐々に後退し、社会保障制度の整った戦後には、宗教への期待はさらに後退していった。新興宗教のカルト問題なども相まって、宗教に対するネガティブなイメージが国内に広がり、さらには葬式の簡略化など、日常生活で

宗教に触れる機会もますます希薄になっていった結果、宗教の社会的な存在感が相対的に弱まってきたのである。

② 社会福祉改革に伴う宗教への期待の高まり

現在の日本においては、国家による福祉・公共サービスを縮小することで、個人や企業による経済競争によって利益を増やし、その恩恵が結果として国民全体にも及ぶという考え方に基づいて政策が立てられている。上（大企業や富裕層）を豊かにすれば、富が下（市民）まで滴り落ちて、経済が発展するという、いわゆる「トリクルダウン理論」である。

しかしこれは、国が市民に対して福祉を提供することにあまり熱心ではないということでもある。実際に、小さな政府によって社会的格差がますます広がり、社会的弱者が自己責任を問われる社会になってきている。第2章で述べたように、社会的弱者に対してのケアは現在、民間の力を引き出して行うという方向に向かっており、その期待度はますます高まっている。四二

こうした歴史的文脈の中で出現したのが、これまで見てきた「子ども食堂」であった。これは、地域住民がより良いコミュニケーションをつくらう、困っている人を助けよう、それによって自分たちの生活も潤いのあるものになるのではないか、という意図のもとに、民間から始められたものである。

子ども食堂には、強いボランティア精神を持った人々と場所の確保が必要であるが、お寺や教会など、宗教団体も多数参入している。信仰による強い結束力と広い参拝施設のみならず、全国に寺は七七二六五か所あり、^{四三} コンビニが五五〇九〇か所であることを考えると、^{四四} 十分に社会的インフラとも成り得るのである。

すなわち、宗教は、子ども食堂を通して大きな社会貢献を果たし得ると考えられるのである。国が積極的に関わってこない、あるいは国の力では足りない部分を、宗教がケアしていく期待が高まっている。宗教団体への課税の議論など、宗教の社会的責任という問題も踏まえ、より積極的に社会に向かって動き、再び存在感を強めていくべき時ではないだろうか。

③ ボランティアにおける宗教連携

一九九五年の阪神・淡路大震災の際、多くのボランティアが全国各地から駆け付け、復旧支援活動に懸命に取り掛かった。これを、機に市民活動団体、ボランティア団体等で法人格の必要性がクローズアップされ、一九九八年に特定非営利活動促進法が制定、^{四五} 法人が誕生した。以後、国、地方自治体の財政逼迫等と相まって全国的に行政とNPOとの協働が広まる。ボランティア活動が社会に必要な不可欠なものであると広く認識されたのである。

このような背景のもと、二〇一一年の東日本大震災にお

いても多くのボランティアが全国各地から駆け付けたが、阪神淡路大震災の時と比べて、宗教団体の行うボランティア活動が社会的にも注目されるようになった。宗教による結束力を持ったボランティア活動は、他と比べて統率が取れており、効率的で大きな力を発揮すると認識されたのかもしれない。

また、宗教者がそれぞれに支援活動を行うだけでなく、教団の枠を越えて協力し合う動きも起こってきた。被災地のいち早い復興のために、情報交換を通して、お互いに今どどのような支援が必要なのかを学び、知恵を出し合って共働していく。そうした、体制づくりが、宗教者や宗教学者らの間で目指されるようになった。そうした、機運の高まりもあって、二〇一一年四月一日には、宗教者災害支援連絡会が発足した。^{四五}

宗教連携という動きは、それ以前にも、たとえば関西では、大阪・あいりん地区の路上生活者への支援に端を発して、「支縁のまちネットワーク」という組織が発足していた。これも、各教団が協力して地域社会の支援活動を行うことを目的とした組織である。^{四六}

異なる宗教団体同士が協力し、多大な社会貢献をするという姿は、「宗教は危ないものである」というネガティブなイメージを払拭する上でも、非常に好ましいものではないだろうか。また、そうした社会貢献に従事するのが特定の宗教に限られていないことは、それだけ宗教の公共性が高

くなり、宗教団体に対する社会的信頼の向上にも繋がりがや
すいと言えるだろう。後述するように、紀ノ川分教会では、
子ども食堂を始めるに際し、チラシに宗教者災害支援連絡
会の理念を掲げたが、そのことは、地元の学校がそのチラ
シを配布物に含める判断の一助になったという。

④ 宗教者による心のケアの社会的需要

新潟県中越地震（二〇〇四年）や能登半島地震（二〇〇
七年）、その他各所で大雨による災害が多発し、復興支援が
さまざまに展開される中で、宗教者による支援活動の一つ
に被災者の心のケアを目指す「寄り添い型」の支援が目指
されるようになった。^{四七}

阪神・淡路大震災の際には、「精神面におけるケアは、精
神科医や臨床心理士などの専門家によつてなされるもの」
という傾向がまだまだ強かったが、東日本大震災では、市
民ボランティアと宗教者が協同し、様々な心のケアの支援
活動に取り組むかたちが実現した。^{四八}

たとえば仙台では、宮城県宗教法人連絡協議会が主宰と
なつて、各宗教団体の連携のもとに「心の相談室」という
取り組みが始まった。これは被災者や遺族の心のケアを目
的とするもので、公共斎場での宗教者による読経ボランテ
ィアから始まり、やがて避難所や仮設住宅を回つて慰問活
動もするようになる。^{四九} これらは宗教者が教えを説いて
導くというよりも、相手の話を聴いて、その苦しみを少し

でも分かち合うという、傾聴活動による心のケアである。
五〇

一方で、従来の医療といえは「専ら科学の力によつて、
人を苦しみから救つてくれるもの」と考えられてきたが、
病気が全て治るわけではなく、死にゆく人、苦しみを抱え
つつ生きなければならぬ人も数多くいる。介護分野の専
門家と介護施設の増加に伴い、「医療的に改善が見込めない
人たちへのケアも、医療の果たす重要な役割ではないか」
という考え方が広がってきた。

五〇（世界保健機関）が定める「健康」の定義の中に、肉
体的、精神的、社会的な健康に加えて、「スピリチュアルヘ
ルス（霊的な健康）」を盛り込もうという議論がなされたが、
五二 これは宗教的な心のケアによつて実現できるものであ
る。天理教の「天理よろづ相談所病院憩いの家」は、開設
当初から、病気を治すとともに、このスピリチュアルケア
を目指したが、今ではスピリチュアルケアを伴う医療が自
然ではないかという認識に変わってきている。その現れと
して、東日本大震災後には、終末期の患者の心のケアに当
たる「臨床宗教師」の養成が東北大学などで始まり、医療
機関側の受け入れもますます広がっている。^{五三} このよう
に、宗教しか果たし得ない心のケアの社会的認知と需要が
高まっているのである。

⑤ 現代社会における宗教の見直し

今日の社会では、観光事業がますます盛んになっている。移動の自由度の高まりとともに、余暇・レジャーの役割や重要性が増してきており、現在は娯楽文化、消費文化の時代と言えらる。

そんな中、パワースポットブームと言われるものが注目を集めているが、これは単に楽しさを求めるのではなく、生き方を変えてくれるような何か、ある種のパワーを得たいと思っている人が現代社会には少なからず存在していることを物語っている。日常生活から離れた場所に赴き、スピリチュアルな資源を求め、あるいは伝統的なものと関わること、何らかのインスピレーションを得ようとする風潮である。実際に、ユネスコに登録されている世界遺産などの観光地にも、宗教的資源はかなり多い。芸術的遺産を持つ美術館などに足を運ぶと、宗教と関わりのある芸術が多いことに気付かされる。こうした、娯楽文化、消費文化の高まりによって、宗教的なものの位置が見直されていると言えらるだろう。^{五三}

科学技術は今後も発展していくが、人間生活も幸せになるという期待感には薄れている。物質文明の進歩に対する期待感には明治維新の頃からあったが、農業中心の社会から都市生活中心に変わり、肉体労働が軽減され、娯楽が増えていった。また、医療ケアも受けやすくなり、平均年齢は年々上がっていくという変化が百年ほど続いてきた。

ところが、一九七三年にオイルショックが起こり、環境

資源の問題が浮き彫りになる。そこから、進歩と思っていたものが、むしろ環境の劣化や資源の枯渇、さらには、人間の孤独化や社会的な交わりの劣化をもたらすのではないかという懸念も高まってきた。それでは、いかにしてこの事態を打開していけば良いのだろうか。物質文明ではない何かに救いを求める人もあるだろうが、閉鎖的な伝統宗教にすがるといふことも難しい状況と言えらる。^{五四}

⑥ 宗教における「ホーム」と「アウエー」

宗教学者の島蘭進によれば、現在ほどの宗教教団も、信者の獲得を前面に出した活動や、信者限定の特殊な閉ざされた活動にとられすぎると、公共空間での活動が軽視される恐れがあり、教団に蓄えてきた知恵や資源を分かち合うことはなく、社会における信頼も得られないことに繋がる。結果として社会の側から見ると、その宗教の存在感を弱めていくことになる。したがって宗教は、「ホーム（自らの宗教施設とそこでの活動）」と「アウエー（公共空間）」における活動のバランスを図ることが大切である。ホームが充実した、奥深い内容を持つていれば、アウエーでスピリチュアリティを養うことができる。そうすれば、アウエーでも多様な人々に混じって意義ある活動ができる。同時に、アウエーから学び取れるものもたくさんある。こうした、互いのフィードバックが一層求められてくる、といふ。^{五五}

さらに島菌によれば、今日の日本社会においては、虐待、引きこもり、いじめなど、孤立している人が増えているにもかかわらず、これを国がケアするということがますます難しくなっている。とりわけ自殺対策については、地域や宗教がいかに救いの手を差し伸べていくかが大きな課題である。

また一方で、安楽死やクローン人間、ゲノム編集など、科学技術の発達とともに生じてきた社会倫理問題に対する答えを、いかに提示していくかということも大切である。これについて、哲学者や宗教学者、社会学者、医学者らによつてさまざまな議論が交わされているが、生命の尊さとは何かと言われれば、これは、宗教の言葉や考え方を参照しないとなかなか答えが出てこない。

その他、平和問題、環境問題など、いずれも宗教側からの知恵が求められている。そうした、諸問題の解決にも、宗教は外に向けて力を発揮していかなければならない。今後、宗教団体は、社会の中で共有される目標に貢献できる組織の在り方を目指す必要がある、と島菌は言う。

こうした島菌の指摘にしたがひ、天理教もその活動を画一化し過ぎず、ホームとアウエーのフィードバックをうまく行い、社会における自らの存在感を高めていくことが大切だと思われる。子ども食堂という「アウエー」の公共活動を、教会という「ホーム」で行うことは、地域に開放された教会ということでもある。教会は、スピリチュアルな

資源の提供といった高まる需要にも応えることができる。今こそが、天理教としての独自性を地域に広く発信できる絶好の機会だと言えるのではないだろうか。自分たちだけの閉ざされた特殊な空間をつくるのではなく、公共空間で果たし得る役割が増えていることに、天理教者ほもつと目を向ける必要があるように思われる。 五六

第二節 地域の拠点としての天理教会

① ある天理教会の子ども食堂の経緯

以下では、二〇一八年四月に子ども食堂を本格始動した教会の経緯を紹介したい。和歌山市にある紀ノ川分教会は、三〇年前から毎年四月に「子ども会」として教祖ご誕生まつりを開催していた。そんな中、二〇一六年には開催予定日の八日前に熊本地震が起こり、子ども会に併せて、被災地への復興支援バザーも同時に行うことになる。そして、信者の子どもを中心だった「子ども会」の対象を、近所的一般の方々にも広げることになる。

それが好評で、近所から次の開催日を問い合わせる電話があつた。そうした要望に応え、定期的にバザーを行い、地域に開放された催しをするようになる。自然災害は非日常的なので、日常的な助け合いに繋がるような支援ということで、二〇一六年十一月、二〇一七年四月と、二回にわたって里親支援バザーを行った。以後、地域に助け合いの輪を広げようという趣旨の行事を定期的で開催するように

なつたのである。

二〇一七年五月十六日には、隣の市で子ども食堂を始める天理教会の見学に行き、多くの子どもが集まる光景を目の当たりにする。市内初の子どもの食堂というところで、学校、保育園、幼稚園の先生や保護者も手伝い、市の社会福祉協議会の職員も多数ボランティアとして協力し、地域住民が一体となって作り上げていく姿に強い関心を寄せる。

そこで、子ども食堂を試験的に七月に行うが、教会の子どもが友人程度の状態が半年ほど続く。二〇一七年十二月、和歌山県庁子ども未来課に、本格的に子ども食堂を立ち上げるにはどうしたらいいかを相談し、翌二〇一八年一月には市の社会福祉協議会、市役所にも行っている。その後、市内や大阪で子ども食堂をしている所を見学に行き、地域によって行政の姿勢はまちまちであることを知り、和歌山市はまだまだ遅れている状況であることを知った。

そんな中、ある子ども食堂を見学した時、主催者に天理教会で子ども食堂を始めたいという旨を伝えると、それが好意的に受け止められた。その主催者が言うには、「自分が以前、自宅前で公園に遊びに来る子どもにもタコ焼きを無料で作ってあげた時、よく通りすがりのおばあさんから『ここは天理さんかい？』と言われました。天理教というのはそういう事をしてきた、歴史的背景があるのだなと思っていたので、天理さんが子ども食堂をするのは自然なことだ

と思います。むしろ私は、世間の人から警戒されることもあるが、天理教というのは信頼の証しだと思つたので羨ましいです。」ということであった。それを聞いた会長は、そのおばあさんには子どもを喜ばせる天理教の教会の思い出があったのだから、もっと自信を持って本腰を入れるべきだと決心する。

その後、小中学校の校長先生に、子ども食堂のチラシを学校の配布物に含めて貰うお願いに行き、了解を得た。保健所にも出向き、視察に来てもらい、スタッフに食品衛生管理者の講習を受けてもらうなど、積極的に行政的な手続きを進めた。

そして、満を持して二〇一八年四月二二日、子ども食堂を改めて始めた。当日は一六一名の参加者があり、朝日新聞、毎日新聞、天理時報など、多くのメディアに取り上げられた。ほかにも衆議院議員二名、県庁職員、市役所職員など、多くの行政側の人々も見学に来た。

その後も、子ども食堂は月一回のペースで行われ、五月一三日にはラジオ（和歌山放送）で放送、テレビ（テレビ和歌山）でも放映され、和歌山市長も見学に来た。一〇月には和歌山市報に掲載されるなど、市内、県内に子ども食堂をする天理教の教会として、広く紹介されたのである。

② 子ども食堂を通じた幅広い社会的繋がり

現在は、地元の高校生、大学生もボランティアに加わつ

ている。大学側からの積極的な協力も得て、ポスターを学内の掲示板に貼ってもらう。

自治会の方々も手伝いに来てくれ、一般のボランティアも十数人に上った。また、食料やバザー品など寄付の申し出も時々あり、食品ロスの活動であるフードバンクの和歌山市の拠点の一つになっている。一〇月十五日には地元の自治会館を無償で借りることができ、出張子ども食堂を行った。また、市の社会福祉協議会が入っている福祉会館の使用料が免除され、二〇一九年一月三〇日にはそこで出張子ども食堂を行う。子ども食堂を広範囲に展開することにより、幅広い社会的な繋がりが出来ている。

子ども食堂に来た子が、普段の日に教会に駆け込んでくることがあった。誰かに襲われたり、虐待があったわけではないが、教会も駆け込み寺の要素が必要だと感じ、警察署に子ども一〇番の家の申請に行く。すると警察が子ども食堂に強い関心を持ち、地域のための貢献に感謝の意を伝えられている。現在では、当教会は地域に防犯意識を高める拠点にもなっているのである。

その他、子ども食堂には不登校の子が二、三人来ている。そのうち一人は、子ども食堂以外に外に出ない子どもであり、母親、学校長と連携しながら、その子が引きこもりにならないように、不登校支援団体に協力を要請しながら、子どもの居場所づくりに取り組んでいる。

防災意識を高める拠点としても展開している。和歌山教

区災害救援ひのきしん隊では、各地域の主だった教会に無線を設置し、災害時の連絡拠点になるように計画している。東日本大震災時に、お寺が被災者の避難所として、指定されている体育館などより畳があることで高齢者に喜ばれたことがあったが、このような受け入れを表明することで、防災担当の市議会議員とも繋がりが出来ており、近くの病院からも、期限近くの防災食を大量に頂いている。

また、教会は天理時報の手配り拠点になっているが、従来は手配り先とは挨拶程度の繋がりがりしかなかったところが、子ども食堂を始めたことで、地域のようにほととの繋がりが強化されたという。今後は系統が違っても、地域のようによく、信者同士が連携する必要性が高まっていく。所属教会が遠くて孤立したようぼくも、子ども食堂のひのきしんを通して、連携を深めていくことが必要であろう。

最後に、この教会には、七五歳の女性が、自転車で一時間半かけてボランティアに来たことがあった。女性は「ラジオ「天理教の時間」を毎週聴いており、天理教の教会というのはどういう所か興味があった。しかし近くの教会に入る機会がなかった」と言うのである。教会が世間から敷居が高いと見られていることを改めて認識しなければならぬ一例と言えるだろう。

③ 子ども食堂における天理教の独自性

ところで、天理教の教会は、子ども食堂としての独自性

をいかに發揮することができようか。この点について、紀ノ川分教会長は以下のように述べている。

未信者のボランティアの人が以前このように話していた。『この人々は本当によく動いて素晴らしいですね。私は色んなボランティア団体を見てきたが、こんなに仲良くテキパキと動いている団体はなかった。』と。未信者が信者から感じたものは、ひのきしんとボランティアの違いのようなものかもしれないし、夫婦親子、兄弟姉妹といった家族の治まりの大切さを説く教理の「にをい」を、子ども食堂を通して出せているのかもしれない。教会で大人数の食事と言えば月次祭の直会があるが、神様に供えられたものを皆が共に食すという行為の中に、スピリチュアルな資源を提供できているのかもしれない。もちろん他にも私たち信者の立場からは気付かない何かがあるかもしれないし、今後もどんな形で出てくるのか非常に楽しみです。

毎日新聞の記事ではタイトルとして、「目指せ「大きな家族」とされている。当会長は、ボランティアに携わる信者には、他とは違う「何か」を出せるように各自考えて動き、広い意味でのにをいがけに繋げることを促している。信者もまた、アウエー（公共空間）での活動において、「人間は親神様を親とした一列兄弟であり、陽気ぐらしの家族を構

成する」という天理教の信仰理念を養うことができるかもしれない。

現代社会では少子高齢化が進み、人々の孤立化の危惧が高まる中、自然災害は全国どこで生じても不思議ではないという認識が広まり、国民は日頃からの地域の繋がりの大切さを認識するようになってきている。子どもの数は徐々に少なくなっているが、児童相談所への相談件数は年々上がっていたり、不登校の子どもも依然多い状況である。文部科学省はこれまで、不登校児に対し、「学校に戻すこと」を前提とした方針から、戻すことがゴールではないという歴史の見直しを行っているが、^{五五} 大人は子どもに学校に行くように圧力をかけるのではなく、心の内を聴き、寄り添うことが求められている。学校ではスクールカウンセラーを配置して対応に努めているが、地域社会が子ども心のケアに敏感になっていくことも大切である。また、子どもの背景には家族の問題もあり、子どもだけを見るのではなく、家族関係を踏まえて支えていくことが大切である。現在、社会福祉課ではひのきしんスクールの中でカウンセリングを取り上げ、傾聴の姿勢の大切さを強調しているが、^{五八} 家族関係に変化を加える家族療法のようなカウンセリング手法を研究することで、^{五九} カウンセリング手法において天理教の独自色を出していくことも可能なのではないだろうか。

SNSの流行が示すように、人間は意識的にせよ無意識

的にせよ、人と人との繋がりを求めていると言える。引きこもり対策は喫緊の社会問題になっているが、同じ地域に住む者同士が挨拶を交わすことが少なくなり、他人への干渉だ、お節介だと思なされる昨今、教会は敢えてその領域に踏み入ることが必要であり、家族のおたすけを通して地域の拠点になっていくことが重要であると思われる。

④ 地域の祭りの担い手としての可能性

従来、神社の縁日に代表されるように、地域の祭りにおいては、神を中心に人と人が繋がり、共に楽しむ「ハレ」の日であった。しかし、自治会に加入しない人の増加など、人間関係が希薄になる現在、地域の祭りの担い手や場所探しに、全国どこでも苦戦しているようである。六〇

大阪教区河枚支部では、「かわひらまつり」という地域に開かれた祭りが、西成大教会で行われている。そのプログラムには、「世界の治まりの祈り」や「ちよっといい話」で、陽気ぐらし講座のような天理教の独自色を出しているが、フリーマーケットや模擬店に加え、献血車も来て献血を呼び掛け、また災害募金、里親活動の広報なども行い、地域の助け合いの輪を広げることを通して、天理教が地域に浸透していくように努めている。

東大阪市で夫婦と実子四人、里子三人の九人で子ども食堂を開いている勢河内分教会では、かわひらまつりの際に「里親になりませんか」という旗を掲げたブースを設け、

府の関係者も招いて共に里親活動の広報を行っている。行政側は、天理教の里親活動の多大な貢献を把握しているからこそ積極的に出かけているのであるが、これもまた、天理教の里親貢献が社会的に認知される良い機会となっている一例であろう。

かわひらまつりのステージでは、鼓笛演奏、雅楽演奏に始まり、マジックやカラオケ、フラダンス、コントなど楽しい行事を入れて、抽選会で終了するといういわゆる「まつり」の要素が前面に押し出されており、年々一般の方が増えて、二〇一八年も千人ほど来場者があったという。支部が一体となって、地域の祭りの担い手や場所の確保をめぐる協力をし、多くのお楽しみ行事の中にも献血や里親などの社会貢献活動も伝え、それらの土台になっている「祈り」の時間、そして日々の信仰実践から生まれる「お話」も入れて、地域の人々にスピリチュアルな資源を提供しつつ、陽気な一日を過ごしてもらおう機会になっている。

このように、今後は子ども食堂を始め、地域に助け合いの輪を広げるこうしたお祭りのような活動を通して、教会が地域の陽気ぐらしの拠点となっていくために互いに連携していくことが大切であろう。陽気ぐらしの「大きな家族」という理想像を深め、各家庭においては信仰を芯とした家族団欒の輪が広がるように、教会はその発信拠点となるべく努めていくことが重要であるように思われる。

結論

本稿では、まず第一章において、天理教の児童福祉を核とした社会福祉の歴史を、天理養徳院設立から振り返った。天理教の社会事業は時々の国家政策、また、地域の福祉ニーズに呼应しつつ、教理を根底にした事業としての独自性を発揮しようと、様々な試みが繰り返されてきた。今なお福祉における実践天理教学は何かという課題は議論されているが、施設から在宅へという社会福祉の構造改革が進む現在、大きく貢献している里親活動などを念頭に、改めて議論を深めていく時期であることを論じた。

第二章では、中央集権型の社会福祉のあり方から地方自治体が、地域の実情に応じ主体的に考え、計画的に推進する分権型の社会福祉に転換している現状を踏まえ、ボランティア活動など市民の自発的な活動が広がっている実情を取り上げた。さらに、一人ひとりの生きがいや自己実現に向けた生活の質の向上を、他者との関係を保ちながら、住民自らが主体的に高めていく社会福祉の文脈を振り返り、そのなかでの子ども食堂の出現という現象について検討した。

次に、現在の天理教の教会における子ども食堂の活動の現状を調べ、その多くが現行の社会福祉の枠組みの中で展開していく状況を紹介し、ひのきしんによる社会貢献という意味では、それが広義のにいがけになっていることを

論じた。

第三章では、宗教の社会貢献の歴史を振り返り、近代以降の福祉国家を目指す中で、宗教の社会的存在感や期待感が薄れてきたものの、現在の福祉国家から福祉社会への転換において、社会的格差が広がり、社会的弱者が自己責任を問われる社会になってきている中で、国の力の届かないところ、ボランティアの力が必要な部分において、宗教の力が再び必要とされていることについて検討した。また、相次ぐ自然災害の復興支援ボランティアにおいて、徐々に社会的に認知されてきた宗教教団の活動状況とともに、臨床宗教師のような、宗教による社会福祉の需要について取り上げた。

さらに、天理教の教会は、子ども食堂において、陽気ぐらしの「大きな家族」という信仰理念からその独自性を出せるのではないかとという可能性について検討した。地域コミュニティの再生のために、天理教の教会が地域の拠点となり、子ども食堂などの日常的な活動や非日常的な災害時の助け合い、あるいは地域活動の担い手になるというように、教会にはまだまだ地域に溶け込む可能性が十分にあることが浮き彫りになったのではないだろうか。

- 一金子昭十「天理教社会福祉研究プロジェクト編『天理教社会福祉の理論と展開』白馬社、二〇〇四年、一二～一三頁。
- 二 同右、一五頁。
- 三 同右、一六頁。
- 四 同右、一六～一七頁。
- 五 同右、二二頁。
- 六 同右、二五～三〇頁。
- 七 同右、二四～二五頁。
- 八 同右、四八頁。
- 九 原田啓之「子ども食堂 全国三二八六カ所に急増 貧困対策、交流の場」『毎日新聞』二〇一八年四月三日。
- 一〇 朝日新聞取材班『子どもと貧困』、朝日新聞出版、二〇一八年、二二六～二四〇頁。
- 一一 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク編『子ども食堂をつくらう！人がつながる地域の居場所づくり』、明石書店、二〇一六年、一五五～一八八頁。
- 一二 「あつたかな手作り食事でホッとして 京都・長岡京に子ども食堂」、京都新聞、二〇一七年一月二〇日。
- 一三 田原牧『人間の居場所』、集英社新書、二〇一七年、一三六～一五四頁。
- 一四 小林野渉「子ども食堂に行ってみた」『仕事文脈』、二〇一六年、タバブックス、四一～四五頁。

- 一五 鎌田實「曇り、ときどき輝いて生きる(第十七回)」『青春と読書』、第五二巻第四号、二〇一七年、三六～三九頁。
- 一六 川越正平他「子ども食堂は地域の人をつなげる拠点になった」『医療と介護』、第二巻第六号、二〇一六年、メディカ出版、五四～五七頁。
- 一七 小林野渉前掲、四一～四五頁。
- 一八 朝日新聞取材班『子どもと貧困』、二二六～二四〇頁。
- 一九 小嶋新「子どもの貧困に対する子ども食堂のアプローチの視点」『賃金と社会保障』、第一六七二号、賃社編集室、二〇一六年、四五～五一頁。
- 二〇 「子ども食堂のいま」、『週刊女性』第六一巻第三号、二〇一七年六月二〇日号、一五〇～一五一頁。
- 二一 朝日新聞取材班『子どもと貧困』、二四七～二四九頁。
- 二二 日笠由紀「今度、ごはん食べにおいてよみが原点！子ども食堂を始めた想いとは」『スーモジャーナル』、リクルート、二〇一六年十二月二六日。
- 二三 朝日新聞取材班『子どもと貧困』、二二六～二四〇頁。
- 二四 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク編『子ども食堂をつくらう！人がつながる地域の居場所づくり』、二〇一六年、三九～六〇頁。
- 二五 田中まさみ「子どもにもひらかれた」『誰でも食堂ハロー』

モニーカフェ」『食べもの文化』 第五二二号、芽ばえ社
二〇一七年、三〇二三四頁。

二六 朝日新聞取材班 『子どもと貧困』、二四七〜二四九
頁。

二七 アグネス・チャン他 「未来を担う子どもたちに希望の
種を」、『公明』第二三四号、公明党機関紙委員会、二〇一
七年、六〜一五頁。

二八 朝日新聞取材班 『子どもと貧困』、二三六〜二四〇
頁。

二九 同右。

三〇 “地域が子どもを育てる試み” 浅草橋「キッズカフェ」
HJ、J-WAVE NEWS (J-WAVE)
<https://www.j-wave.co.jp/blog/news/2017/05/post-12.html>

三二 田原牧 『人間の居場所』、一三六〜一五四頁。

三三 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク編 『子ども食堂を
つくる。一人がつながる地域の居場所づくり』二〇一六年、
一三二〜一三五頁。

三四 同右、四頁。

三五 『あらしとつりよう』第二七〇号、二〇一八年、天理
教青年会、五八〜六三頁。

三六 『陽気』第七〇巻第二号、二〇一八年、養徳社、二〇一
二四頁。

三六 「福祉のひろば」第一五号、二〇一八年、天理教布教
部社会福祉課、三二一〇頁。

三七 「天理時報」天理教道友社、二〇一八年五月二〇日号、
一頁。

三八 『さんさい』第六八巻第八号、天理教少年会、二〇一
八年、七〜二三頁。

三九 <http://kodomoshokudou-network.com/> (二〇一八年一
〇月二五日探索)

四〇 『あらしとつりよう』第二七〇号、一三三頁。

四一 同右、二四〜二五頁。

四二 同右、二七〜二八頁。

四三 平成一九年度宗教統計調査による。
http://www.next.go.jp/b_menu/toukei/chousa07/shuukyoku/1262852.htm (二〇一八年一月二三日探索)

四四 大手各社の平成二九年二月期決算資料によると、コン
ビニの店舗数は、セブンイレブン(一九一六六)、ファミリ
ーマート(二八一八五)、ローソン(二二八三九)、ミニスト
ップ(二二四七)、デイリーヤマザキ(一四七〇)、セイコー
マート(一一八二二)となっている。

四五 『あらしとつりよう』第270号、25頁。

四六 同右、二四〜二五頁。

四七 同右、二五頁。

四八 同右、二五頁。

- 四見 「福祉のひろば」第一五号、三〇一〇頁。
- 五〇 『あらきとうりよう』第二七〇号、二六頁。
- 五一 『五〇憲章における「健康」の定義の改正案について』（厚生労働省HP）
https://www.mhlw.go.jp/www1/houdou/1103/h0319-1_6.htm
 四二（二〇一八年一月三日探索）
- 五二 Yahoo 特集 「死への恐怖」にどう向き合う―死期迫る人に寄り添う臨床宗教師―
<https://news.yahoo.co.jp/feature/1089>（二〇一八年一月十三日探索）
- 五三 『あらきとうりよう』第二七〇号、三〇頁。
- 五四 同右、三二頁。
- 五五 同右、二八～二九頁。
- 五六 同右、二八～二九頁。
- 五七 「不登校新聞」第四八七号（二〇一八年八月一日号）、
 「『学校に戻すことがゴールじゃない』―文科省が不登校対応の歴史的な見直しへ―」
- 五八 ひのきしんスクール「カウンセリングと聴くことの大切さ」、二〇一八年六月二日和歌山教務支庁
- 五九 東豊『マンガでわかる家族療法 親子のカウンセリング編』日本評論社、二〇一八年、七～三七頁
- 六〇 NHK ニュース「おはよう日本」「祭りどう存続？地域の葛藤」、二〇一七年一月二二日、視聴。

参考文献

- 金子昭十 天理教社会福祉研究プロジェクト編 『天理教社会福祉の理論と展開』社、二〇〇四年。
- 朝日新聞取材班 『子どもと貧困』朝日新聞出版、二〇一八年。
- 『子ども食堂をつくらう！』NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク明石書店、二〇一六年。
- 『深刻化する子どもの貧困 子ども食堂を作らう！』No. 四二二 二〇一六年、季刊社会運動
- 小林じゅうたろう『だから、子ども食堂』水山産業出版、二〇一七年。
- 湯浅誠『なんとかする』子どもの貧困』角川新書、二〇一七年。
- 大谷栄一・藤本頼生『地域社会をつくる宗教』明石書

店、二〇二二年。

・ 田原牧 『人間の居場所』 集英社新書、二〇一七年。

・ 小林野渉 「子ども食堂に行ってみた」、『仕事文脈』タ
バブックス、二〇一六年。

・ 鎌田實 「曇り、ときどき輝いて生きる(第一七回)」『青
春と読書』第五二巻第四号、二〇一七年。

・ 川越正平他 「子ども食堂は地域の人をつなげる拠点に
なった」『医療と介護 next』

第二巻第六号、メデイカ出版、二〇一六年。

・ 小嶋新 「子どもの貧困に対する子ども食堂のアプロ
チの視点」『賃金と社会保障』第一六七二号、賃社編集
室、二〇一六年。

・ 「子ども食堂のいま」、『週刊女性』第六一巻第三
号、二〇一七年六月二〇日号。

・ 田中まさみ 「子どもにもひらかれた「誰でも食堂ハ
ー モニーカフェ」『食べもの文化』

第五一一号、芽ばえ社、二〇一七年。

・ アグネス・チャン他 「未来を担う子どもたちに希望の

種を」、『公明』第一三四号、公明党

機関紙委員会、二〇一七年。

・ 『あらかとよりよう』第二七〇号、天理教青年会、二
〇一八年。

・ 『陽気』第七〇巻第三号、養徳社、二〇一八年。

・ 「福祉のひろば」第一五号、天理教布教部社会福祉課、
二〇一八年。

・ 「天理時報」天理教道友社、二〇一八年五月二〇日
号。

・ 『やんごい』第88巻第8号、天理教少年会、二〇一
八年。

・ 「『三〇憲章』における「健康」の定義の改正案について」
(厚生労働省 出)

・ 「不登校新聞」第四八七号 (二〇一八年八月一日号)、

「“学校に戻すことがゴールじゃない”―文科省が
不登校対応の歴史的な見直しへ―」

・ 東豊『マンガでわかる家族療法 親子のカウンセリング
編』日本評論社、二〇一八年。

成人 第六六号

発行日 二〇一九年三月一九日

編集 天理大学宗教学科研究室

天理大学成人会

発行者 天理大学成人会

印刷・製本 天理大学DPセンター